

Team HOPE
Team HOPE会員／ペットのご家族様
アンケート結果報告書

2017年1月
Team HOPE広報事務局

調査の概要

■目的

- ① Team HOPEの会員（獣医師）の、健診の実態を把握する。また、ペットの健康維持、予防医療、Team HOPEの活動に対してどのように考えているかを知る。
- ② ご家族様が、ペットの健康維持、予防医療についてどのように考えているか、実際に健診を受けさせているか、ペットの健康管理の意識と実態を把握する。
- ③ 上記①②を明確にし、両者のギャップや類似点を見つける。

上記結果を今後のTeam HOPEの活動に生かすとともに、この結果を、1月発行予定のTeam HOPEニュースレター第2号の記事に生かす。

調査は2種類を実施する。

<調査1 Team HOPE会員調査>

■調査対象

: Team HOPE賛同病院会員（712名）
有効回収数

■調査方法

: 自記入 郵送調査 web調査併用
（アンケートを郵送し、FAXで回収するが、回収率を上げるため、郵送調査送付時にwebサイトにも誘導し、サイト上での回答も可能にする。）

■調査期間

: 2016年11～12月初

<調査2 ペットのご家族様調査>

■調査対象

: 犬、猫のご家族（（家族の中で主にペットの面倒を見たり、健康管理をしている人）全国、20歳以上、
有効回収数 412

・犬・猫のご家族様各206名

（ペットの年齢7歳未満 各103 s、7歳以上各103 s）

* 対象者は事前にスクリーニングし、上記に該当する人のみを調査対象とする。複数と暮らしている場合は、分類の際は年齢が上のペットのご家族様とした。

■調査方法

: w e b 調査

■調査期間

: 2016年12月

調査のサマリー 1. Team HOPE会員調査

○回答した獣医師の属性

回答した獣医師の約9割が男性、年齢は30代から50代が9割を占める。病院の開院年は2010年以降の人が全体の3割を超えている。病院の2/3は獣医師1～2名で、動物看護師は獣医師1人につき、1～2名程度。

○Team HOPEへの入会

入会されて1年未満という方が44%。その前の年の入会26%から大きく伸びている。

入会のきっかけは、「知り合いの獣医師に勧められて」が最も多く、6割。入会した理由は、「ペットの予防医療が大切だと思うから」が最も多く、ついで「ペットの健康寿命を延ばすために社会啓発が必要だと思うから」。理念・考え方に共感しての入会が多い。

○健康診断

ペットの健康診断は、「積極的に実施している」「希望に応じて実施している」という病院がそれぞれ半数近く、ほとんどの病院で実施している。

Team HOPE健康診断の内容を全てお勧めしている人は約6人に1人であり、Team HOPE健康診断に準じて部分的にお勧めしているという人と合わせると、半数以上がTeam HOPE健康診断を実施している。

一方、Team HOPE健康診断と関係なくお勧めしているという人も多く、理由として最も多いのは「入会前から実施していたものを継続している」というものの。

○ペットのオーナーへの期待

オーナーに「非常に心がけてほしい」と思うこととして多いのは「普段の体調を把握し異常を早く見つけること」「食事の質や量を管理する」でいずれも7割を超えている。以下、「予防接種を受ける」「健康診断を年に1回以上受ける」「かかりつけの動物病院を作る」「ペットの体重管理をする」が60%台で続く。健康維持のためにペットを連れてきてほしい頻度は、「半年に1回程度」「3か月に1回程度」合わせて8割で、多くは、「ペットの年齢などにもよるが3か月から半年に1回程度は来院してほしい」と考えている。

調査のサマリー 2. ペットのご家族様調査

○回答者とペットの属性

猫オーナーは犬オーナーより複数頭と暮らしている人が多く、7歳以上の猫と暮らしているオーナーの半数は2頭以上の猫と暮らしている。
また、犬と猫両方と暮らしている人が、1割程度いる。
調査対象のペットのうち、犬は雄が多く、また、小型犬・超小型犬が多い。

○ペットの既往・健康状態

全体では「特にない」という答えが7割で、健康に過ごしてきているペットが多い。
7歳以上の犬は、何らかの病気などを経験している割合が若い犬、猫より高く、既往が「特にない」という答えが半数に満たない。
現在の健康状態を聞いたところ、犬、猫とも7歳未満では「とても良好」が5割を超え、「やや良好」と合わせるとほとんどが「良好」と答えている。
7歳以上は、犬・猫とも「良好」という答えが7歳未満より少なく、7歳以上の犬は約1割が「あまり良くない」「非常に良くない」と答えている。

○ペットを病院に連れていくこと

ペットを病院につれていく頻度はばらつきが大きい。
全体に猫より犬の方が病院につれていく頻度が高く、7歳以上の犬オーナーは1か月に1回以上病院に連れて行っている人が3割を超え、特に頻度が高い。
猫は7歳未満より7歳以上の方が病院に行っておらず、1年に1回も行っていないという答えが4割を超える。

○健康診断の受診状況

ペットの健診を「定期的に受けさせている」という人は3割。一方、「受けさせたことはない」「定期的ではないが受けさせてことはある」という人もそれぞれ3割強で、3分している。
犬は年齢が上がると定期健診を行っている人が多い。猫は逆に7歳以上オーナーの半数近くが、受けさせたことはないと答えている。
定期的に健診を受けさせている人は犬・猫とも、半年に1回という人が1/3、それ以外はほぼ1年に1回という頻度。
健康診断の内容は「問診」、「視診」が8割超、「聴診」「血液検査」がほぼ同程度で6割。「レントゲン」「尿検査」は2割程度。
犬は、「聴診」「血液検査」「レントゲン」「尿検査」いずれも年齢が高い方が受診率が高い。
1回あたりの健診にかけている金額は、全体では5000円未満の人が3割。1万円未満の人が7割を占める。7歳以上の犬オーナーが最もお金をかけており、1万円以上の人が3割以上。一方、7歳以上の猫オーナーは1万円以上かけている人は1割強にとどまる。

調査のサマリー 2. ペットのご家族様調査

○健康診断への考え

現在の健康診断に満足している（「非常に満足している」＋「まあ満足している」）という人は、全体の7割。「不満」という人はほとんどいない。最も満足度が高いのは7歳未満の猫オーナーで、「満足している」という人が8割超。満足が低いのは7歳以上の犬オーナーで、「満足している」は6割に満たない。

健診は、「手ごろな価格なら健診を受けさせたい」というオーナーが最も多く、4割。ほぼ同程度で「お金がかかってもペットの健康のために定期的に健診を受けさせたい」と答えている。多くのオーナーは健診を受けさせたいという意向があることがわかる。

○健康寿命を延ばすために大切なこと

健康寿命を延ばすことについて、大切（非常に大切＋やや大切）と答えているオーナーは9割近く。

健康寿命を延ばすために「非常に心がけている」という人が最も多いのは「かかりつけの動物病院を作る」ついで「予防接種を受ける」で、いずれも約半数近い。

「心がけている（非常に＋やや）」という人の割合でみると、「食事の質や量を管理する」「普段の体調を把握し、異常を見つける」が、「かかりつけの動物病院を作る」と同様にほぼ9割であり、この3項目がオーナーにとって最も重要な位置づけてあることがわかる。

「健康診断を1年1回以上」「ペット保険」は他に比べ心がけている人が少ない。

「普段の体調を把握し、異常を早く見つける」「かかりつけの動物病院を持つ」という点は犬、猫に関係なく、ほとんどのオーナーが「心がけている」と答えている。

全体に猫より犬のオーナーの方が様々なことを心がけている。また、犬は年齢が高い方が、猫は年齢が若い方が、オーナーは健康を気遣う傾向がある。予防接種は犬には定着しているが、猫オーナーで「心がけている」という人は半数程度。「健康診断を1年に1回以上受ける」という猫オーナーは4割に満たない。

○狂犬病予防接種

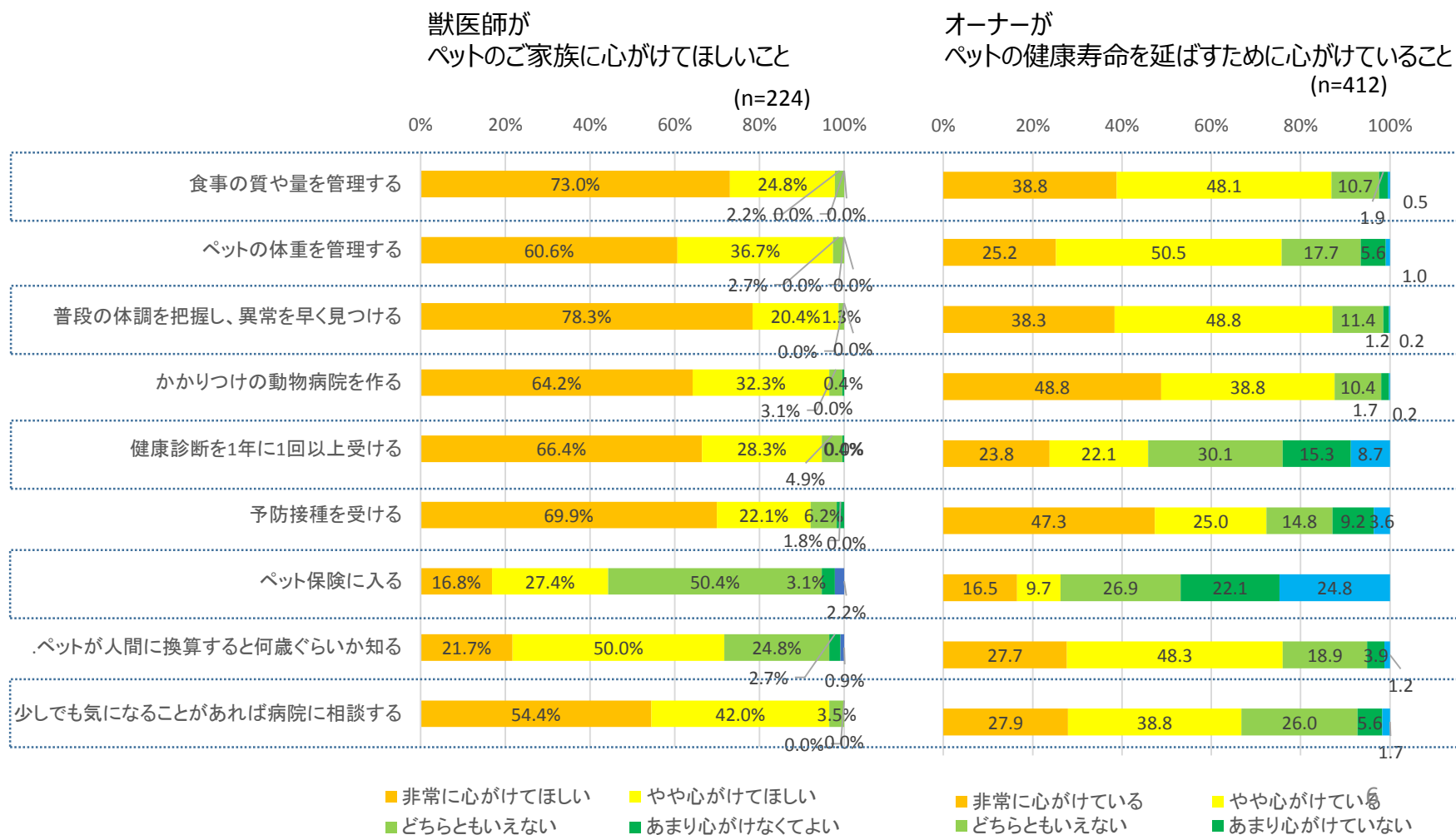
狂犬病の予防接種は毎年必ず受けているというオーナーが8割。一方、したことがない、ここ3年ほどはしていないというオーナーが合わせて約1割いる。

○チムホープ認知率

7歳未満のペットのオーナーの方が知っている人が多く、内容まで知っている「名前は見た（聞いた）ことがある」という人が約2割。

調査のサマリー 3. 獣医師とオーナーの意識格差

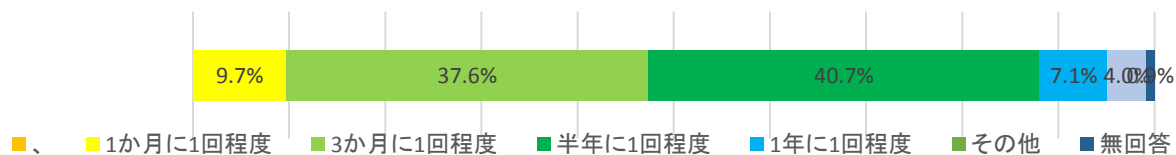
ほぼ同じ質問項目で聞いた「ペットご家族に心がけてほしいこと」とオーナーが「心がけていること」を比べると、「健康診断を1年に1回以上受ける」という項目の乖離が特に大きい。「ペットの体重管理」や「普段の体調を把握し異常を早く見つける」なども、やや乖離がある。



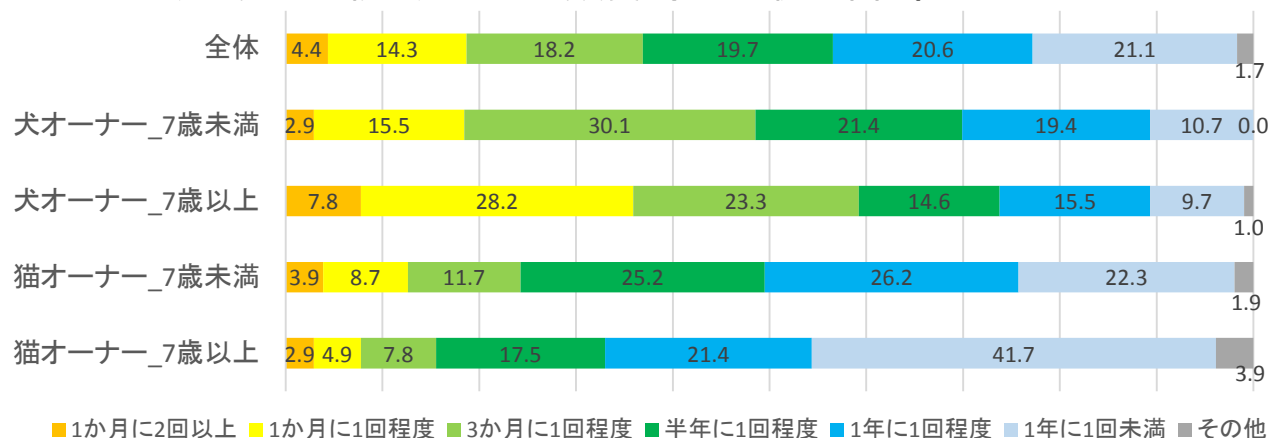
調査のサマリー 3. 獣医師とオーナーの意識格差

獣医師が病院に連れてきてほしい頻度は、3か月に1回～半年に1回程度。一方、オーナーを見ると、種類により差が大きい。7歳以上の犬オーナーは1か月に1回以上の人が3割を超えており、獣医師が期待している頻度以上である。一方7歳以上猫の6割は、1年に1回程度以下。

■ 獣医師がオーナーにペットを病院に連れてきてほしい頻度（健康維持のため）



■ オーナーがペットを病院に連れていく頻度（病気・健診含む）



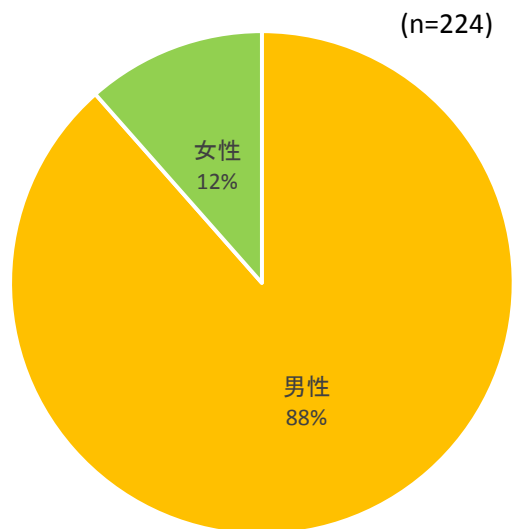
<調査 1 Team HOPE会員調査>

回答者の属性

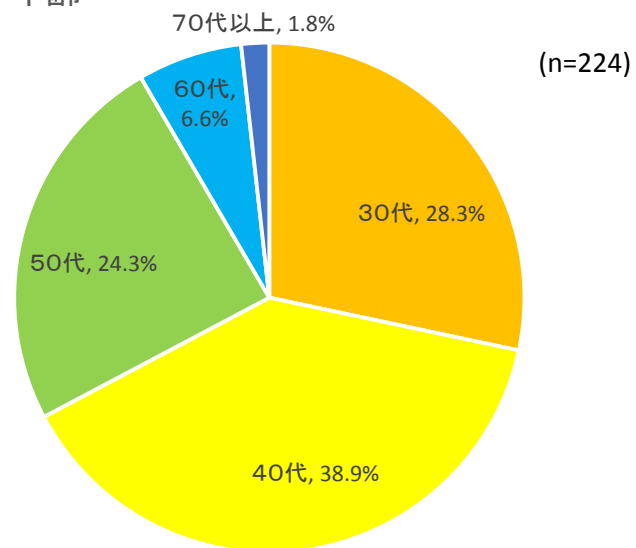
回答した獣医師の約9割が男性。
年齢は40代が4割を占め、30代から50代で9割を超えている。

■ 回答者の性別・年齢

性別



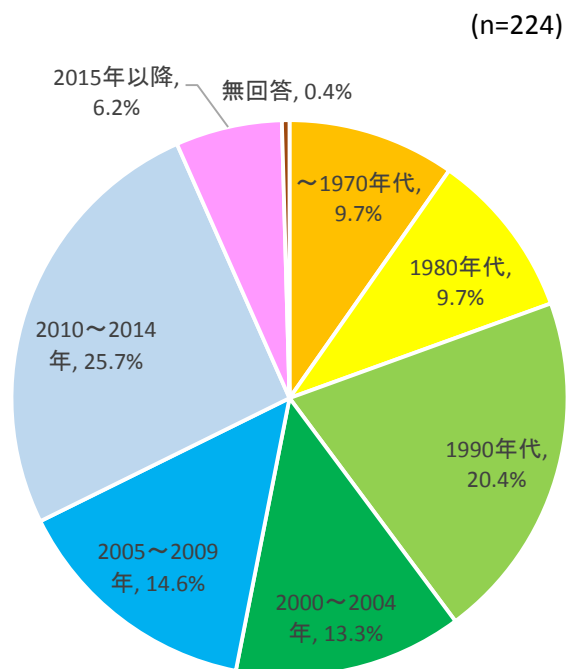
年齢



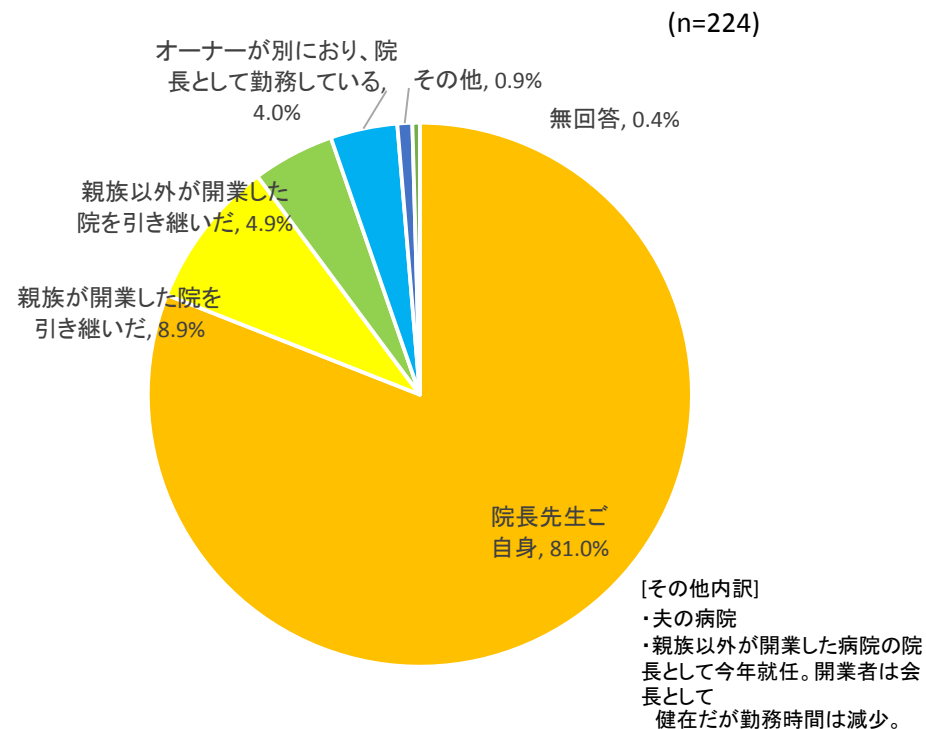
病院の開業

病院の開院年は2010年以降の人が全体の3割を超えている。一方1990年代以前の開院は、4割。8割は院長先生ご自身が開業しているが、親族などから引き継いだ方が1割を超えている。開院して40年以上の先生は、このケースが多いと考えられる。

■ 開院された年



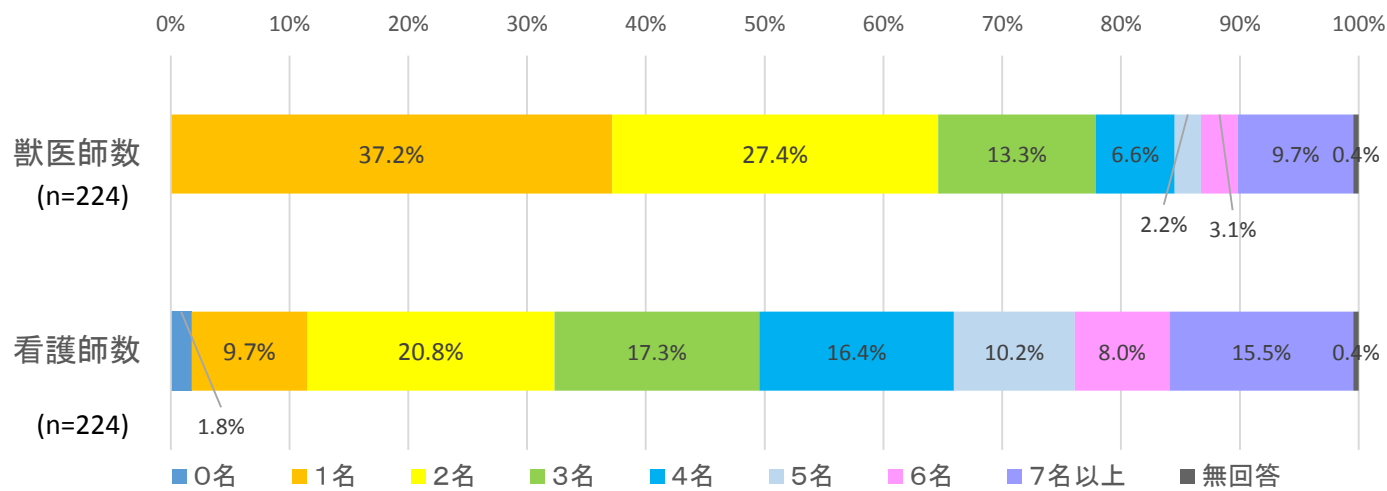
■ 開業された方



病院の獣医師・動物看護師数

獣医師1人の病院は4割弱。一方、5人以上獣医師がいる病院は15%をやや超える。
動物看護師は、ほとんどの病院にあり、人数はばらつきが大きい。獣医師1人に看護師 1～2名といった割合とみられる。

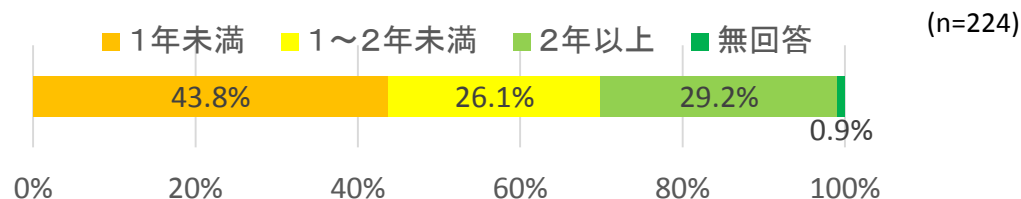
■ 貴院には獣医師、動物看護師 それぞれ何人いらっしゃいますか。



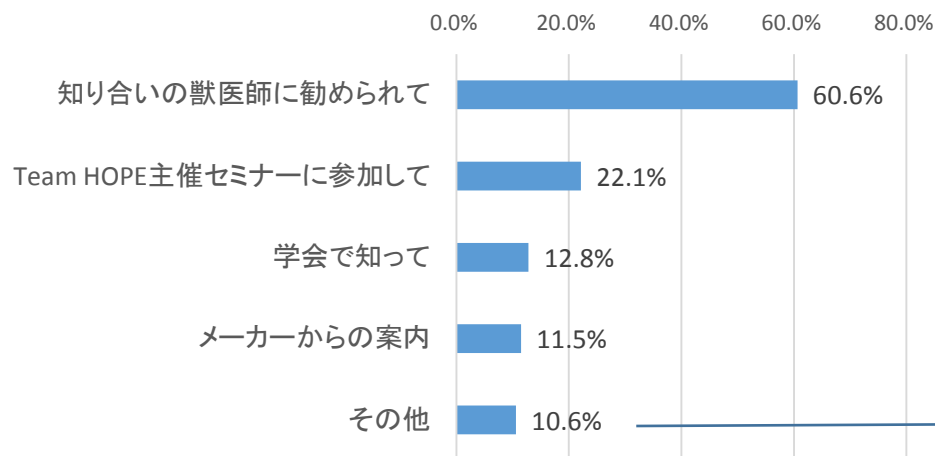
Team HOPEへの入会時期ときっかけ

Team HOPE に入会されて1年未満という方が44%。その前の年の入会26%から大きく伸びている。
入会のきっかけは、「知り合いの獣医師に勧められて」が最も多く、6割。ついで、「セミナーに参加して」が2割。「学会で知って」「メーカーからの案内」となっている。

■ 先生がTeam HOPE に入会されてどのくらい経ちますか。



■ 先生がTeam HOPE に入会されたきっかけは何ですか (n=224)



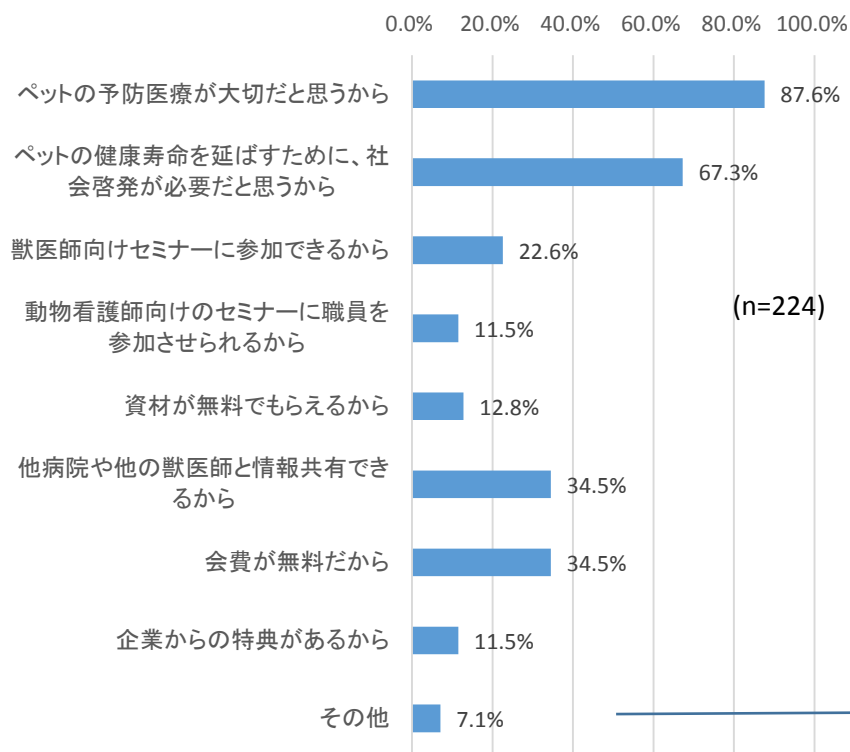
[その他内訳]

- ・インターネットで(6)
- ・DM(3)
- ・川野先生の紹介(2)
- ・facebook
- ・SDMAが先行測定できたから
- ・西岡先生からの紹介です
- ・太田先生の意見を聞いて
- ・興味ある施策であったため
- ・TeamHOPEの発起人が太田恵慈のため
- ・友達の獣医師が入会していたから
- ・病院の所属する研究会で入会案内のセミナーを開催していただいた
- ・開業からの当院の方針と趣旨が合致したのと、北摂セミナーで勧められたため
- ・説明会に参加して
- ・いつのまにか
- ・九州地区委員
- ・立ち上げに参加

Team HOPE入会理由

Team HOPE に入会した理由は、「ペットの予防医療が大切だと思うから」が最も多く、8割を超え、ついで「ペットの健康寿命を延ばすために社会啓発が必要だと思うから」が7割弱。理念・考え方に共感しての入会が多いことがわかる。

■先生がTeam HOPE に入会された理由は何ですか。



[その他内訳]

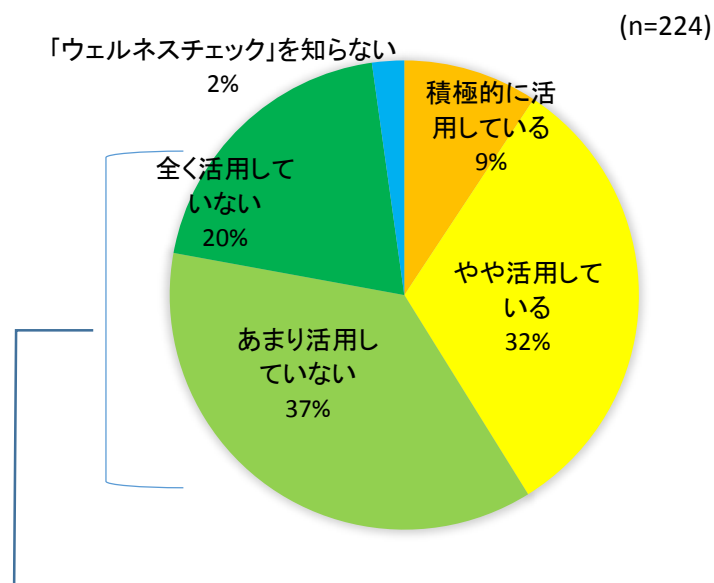
- ・勧められたので
- ・業界のために頑張っている団体さんは応援したく存じます
- ・健康診断の標準化が盛り込まれていたから
- ・健診の基本形として利用できる
- ・取り組みへの共感
- ・常に臨床獣医師をとりまく環境の変化に対応していて魅力を感じた
- ・新しい取組によって獣医業界も大きくなれば良い
- ・全国統一の健診基準を実施できるから
- ・他の獣医師などと、大学や代診先などとは違った関係で知り合うことが出来る
- ・太田先生のお人柄を信じて
- ・知人の先生に勧められたから
- ・定期健康診断のスタンダードが必要だし足並みを揃える必要もあると考えるので
- ・定期的な来院促進が必要だから
- ・同世代の先生や友人が入会したため
- ・名前だけ書いてくれと懇願されたので
- ・友人の先生にすすめられて

「ウェルネスチェック」シート活用

「ウェルネスチェック」シートは「活用している（積極的に活用している＋やや活用している）」という人が4割いる一方、「全く活用していない」という人が2割に上っている。

活用できていない人の活用できない理由を見ると、「多忙のため」「もともと使っているものからの切り替えや新規の導入ができない」という人が多い。また、ほかに、①病院側の体制（「スタッフ間での共有がまだできていない」「使うタイミングが難しい」など） ②オーナーのニーズ・リテラシー（「記入をすすめても「問題なし」で返されることが多い」など） ③シート自体（「説明・記入に時間がかかる」「よくわからない」など）の理由も見られる。

■ 貴院ではTeam HOPE の「ウェルネスチェック」シートを活用していますか



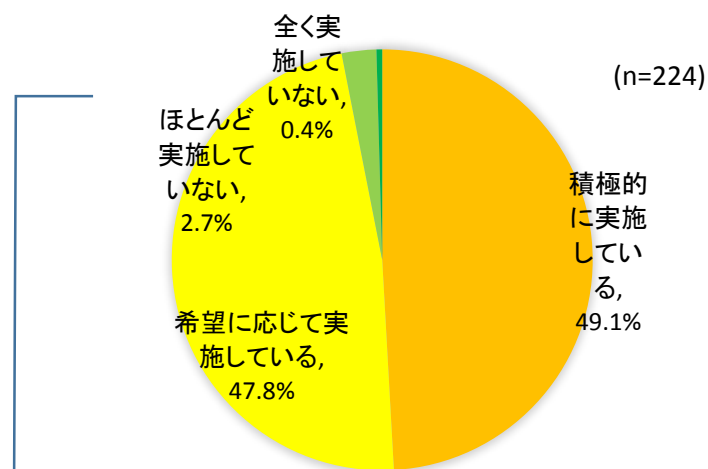
■ 活用していない方の 活用していない主な理由

- ・もともと使っていたものがある
 - ・多忙で導入の準備時間がない
 - ・オーナーへの説明、おすすめのタイミングが難しい、時間がない
 - ・オーナーへのお知らせ不足、オーナーのニーズがない
 - ・入会して間もない
 - ・使いづらい
- など
(詳細別紙参照)

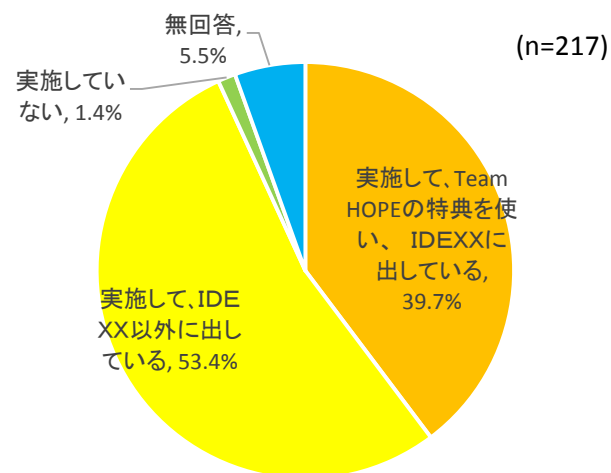
ペットの健康診断実施状況（１）

ペットの健康診断は、「積極的に実施している」「希望に応じて実施している」という病院がそれぞれ半数近く、ほとんどの病院で実施している。
実施していない理由を見ると、「手が回らない」という答えが多い。

■ 貴院ではペットの健康診断を実施していますか



■ 実施している健康診断で血液検査を実施していますか



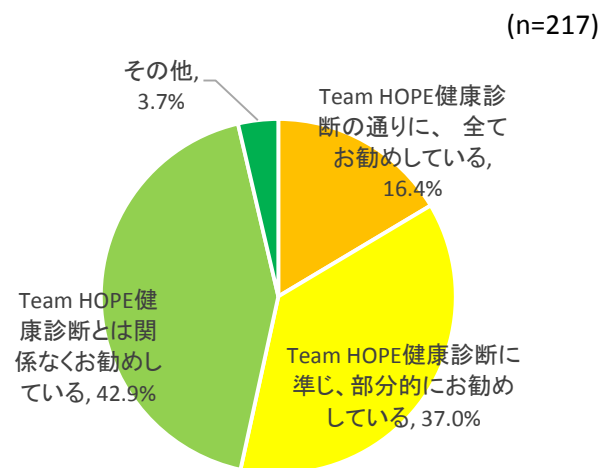
■ 健康診断を実施しない理由

- ・ すすめでも「やりたくない」と言われることが多い
- ・ 手がまわらない
- ・ 手が回らない。
- ・ 十分に実施する時間がない
- ・ 特に希望がないのと、心エコーが苦手なので
- ・ 忙しくて手が回らない
- ・ 問診で出来る限り体調の変化に気づくように努力している。

ペットの健康診断実施状況（２）

Team HOPE健康診断をすべておすすめしている人は16%、約6人に1人であり、Team HOPE健康診断に準じて部分的にお勧めしているという人と合わせると、半数以上がTeam HOPE健康診断を実施している。
一方、Team HOPE健康診断と関係なくお勧めしているという人が4割に上っている。
その理由として最も多いのは「入会前から実施していたものを継続している」というもので、8割を超える。そのほかの理由はわずかである。。

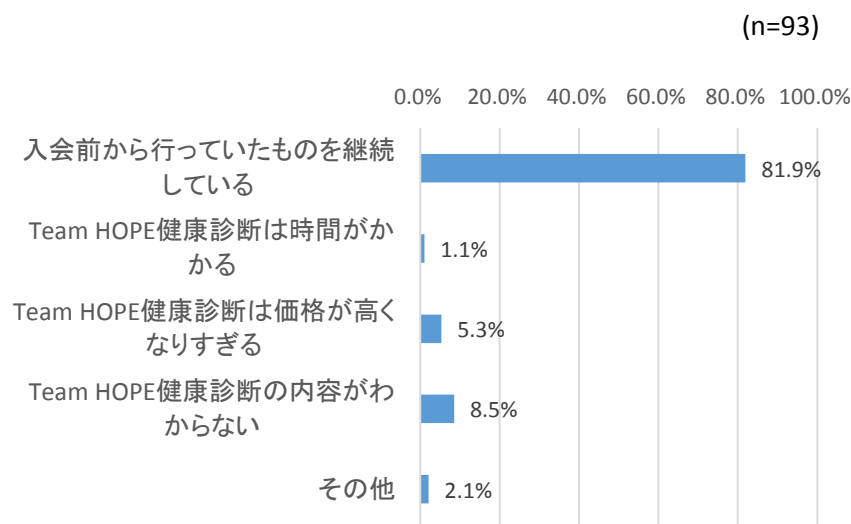
■ お勧めしている健康診断は Team HOPE健康診断ですか



[その他内訳]

- ・TeamHOPEに準じ院内検査をしている
- ・Team HOPE健康診断に準じている部分もありますが、過去から継続して行ってきた内容を変更するのが大変
- ・以前から実施している健康診断があり、院内にて血液検査をおこなっている。
- ・これからはTeam HOPEの健診を使っていこうと思います
- ・ツールを使用させてもらっていて独自にアレンジしている
- ・モノリス検診
- ・勧めていない。希望に応じて実施している
- ・申し訳ありませんがしてません

■ Team HOPE健康診断と関係なく お勧めしている 理由をお知らせください。



[その他内訳]

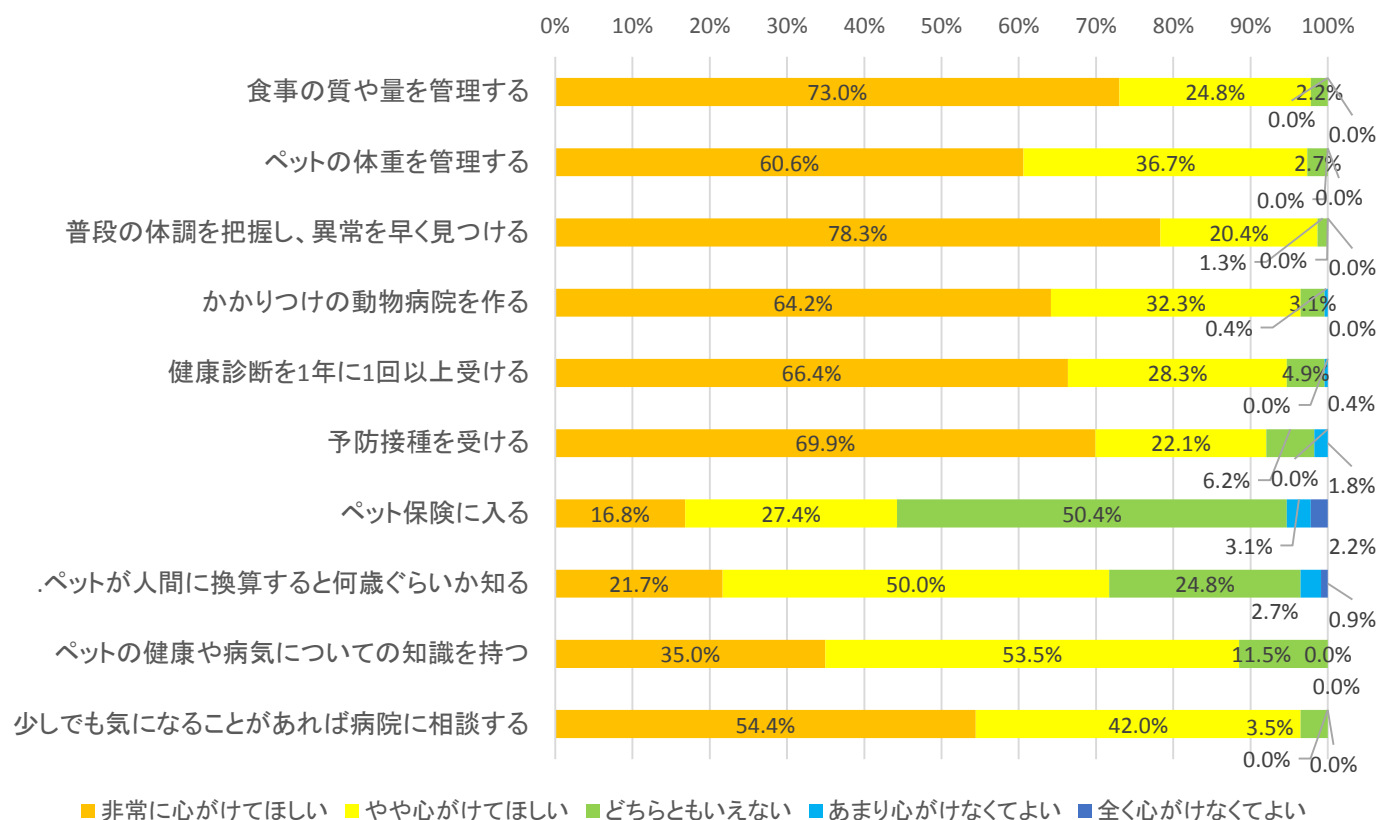
- ・検討中
- ・当院の地域では他社さんが無料で集荷してくれるため。
- ・当院ではIDEXXの機械を使っていないため外注

ペットのご家族に心がけてほしいこと

ペットのオーナーに「非常に心がけてほしい」と思うこととして多いのは「普段の体調を把握し異常を早く見つけること」「食事の質や量を管理する」でいずれも7割を超えている。

以下、「予防接種を受ける」「健康診断を年に1回以上受ける」「かかりつけの動物病院を作る」「ペットの体重管理をする」が60%台で続いている。

■ ペットの健康寿命を延ばすためにご家族様にどのようなことを心がけてほしいと思いますか (n=224)



* その他、「ご家族様に心がけて欲しいこと」自由回答は別紙参照

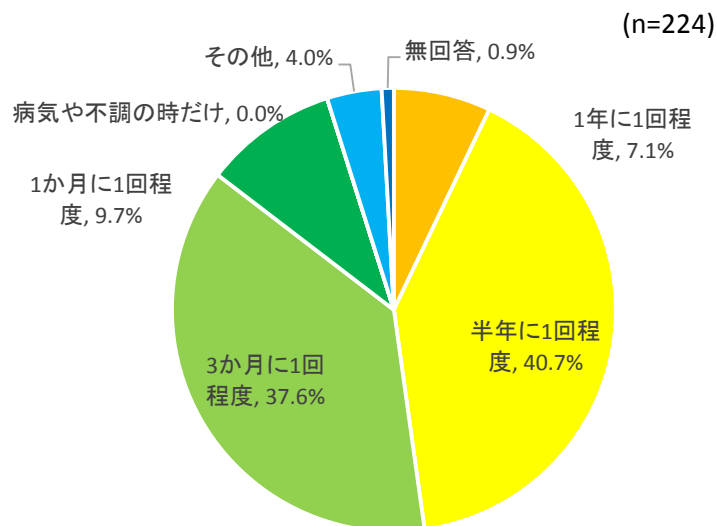
ご家族に期待する来院頻度

ペットのオーナーに、健康維持のためにペットを連れてきてほしい頻度を聞いた。

半年に1回程度、3か月に1回程度がいずれも4割程度で多い。

その他として「年齢や品種による」というものが上っており、そのペットごとで多少異なるものの多くの獣医師が3か月から半年に1回は連れてきてほしいと考えていることがわかる。

■ご家族には、健康維持のために、どのくらいの頻度でペットを病院に連れてきてほしいと考えていますか



[その他内訳]

- ・その症例の特性に応じて
- ・動物種や性格により異なる
- ・年齢などにより3ヶ月から半年に1回程度
- ・年齢により異なる
- ・年齢による
- ・年齢に応じて適切な時期に
- ・年齢や体調によって異なる
- ・年齢や品種による
- ・年齢や基礎疾患によりですが、どんなに健康でも3か月に1回は全身を触っておきたいです

＜調査 2 ペットのご家族様調査＞

回答者の属性

回答者は女性が6割。年齢は幅広いが7歳以上のペットのオーナーは若いペットのオーナーよりやや年齢が高い。

		性別				年齢										
		全体	男性	女性		全体	20～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45～49才	50～54才	55～59才	60才以上	
全体		412	161	251	全体	412	11	27	38	50	65	63	57	35	66	
		100.0	39.1	60.9		100.0	2.7	6.6	9.2	12.1	15.8	15.3	13.8	8.5	16.0	
犬オーナー_7歳未満	103	37	66	犬オーナー_7歳未満	103	6	8	10	18	14	13	10	9	15		
	100.0	35.9	64.1		100.0	5.8	7.8	9.7	17.5	13.6	12.6	9.7	8.7	14.6		
犬オーナー_7歳以上	103	43	60	犬オーナー_7歳以上	103	1	4	11	12	19	11	15	10	20		
	100.0	41.7	58.3		100.0	1.0	3.9	10.7	11.7	18.4	10.7	14.6	9.7	19.4		
猫オーナー_7歳未満	103	42	61	猫オーナー_7歳未満	103	3	9	14	11	15	18	10	9	14		
	100.0	40.8	59.2		100.0	2.9	8.7	13.6	10.7	14.6	17.5	9.7	8.7	13.6		
猫オーナー_7歳以上	103	39	64	猫オーナー_7歳以上	103	1	6	3	9	17	21	22	7	17		
	100.0	37.9	62.1		100.0	1.0	5.8	2.9	8.7	16.5	20.4	21.4	6.8	16.5		

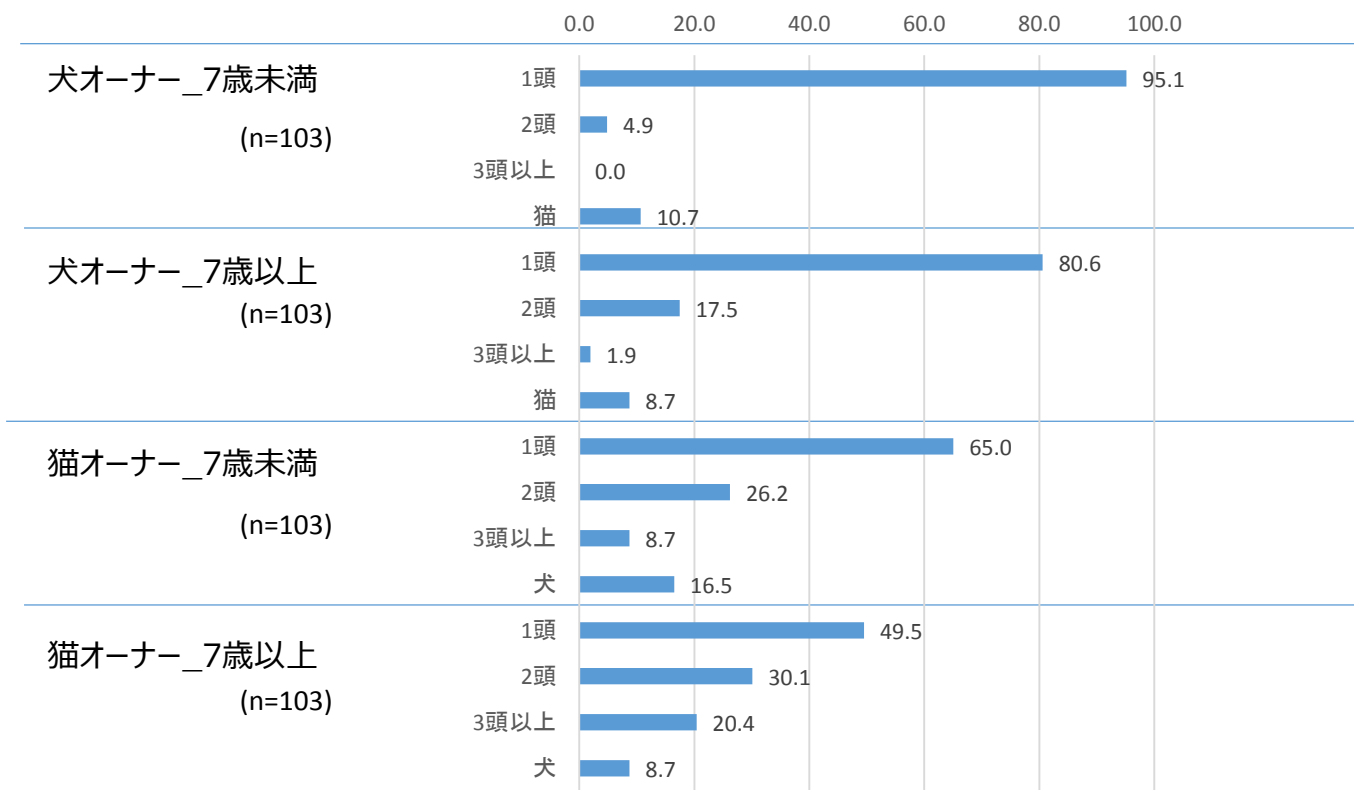
		地域								
		全体	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
全体		412	15	20	171	79	58	19	17	33
		100.0	3.6	4.9	41.5	19.2	14.1	4.6	4.1	8.0
犬オーナー	7歳未満	103	4	8	42	23	9	4	5	8
		100.0	3.9	7.8	40.8	22.3	8.7	3.9	4.9	7.8
	7歳以上	103	5	2	42	19	16	5	6	8
		100.0	4.9	1.9	40.8	18.4	15.5	4.9	5.8	7.8
猫オーナー	7歳未満	103	0	8	44	18	17	5	2	9
		100.0	0.0	7.8	42.7	17.5	16.5	4.9	1.9	8.7
	7歳以上	103	6	2	43	19	16	5	4	8
		100.0	5.8	1.9	41.7	18.4	15.5	4.9	3.9	7.8

犬と猫のオーナーの暮らしているペットのうち、最年長のペットでオーナーを分類した。

回答者が暮らしている頭数

猫オーナーは犬オーナーより複数頭と暮らしている人が多く、7歳以上の猫と暮らしているオーナーの半数は2頭以上の猫と暮らしている。
また、犬と猫両方と暮らしている人が、1割程度いることがわかる。

■ 暮らしている頭数



最年長（調査対象）のペットの性別・サイズ

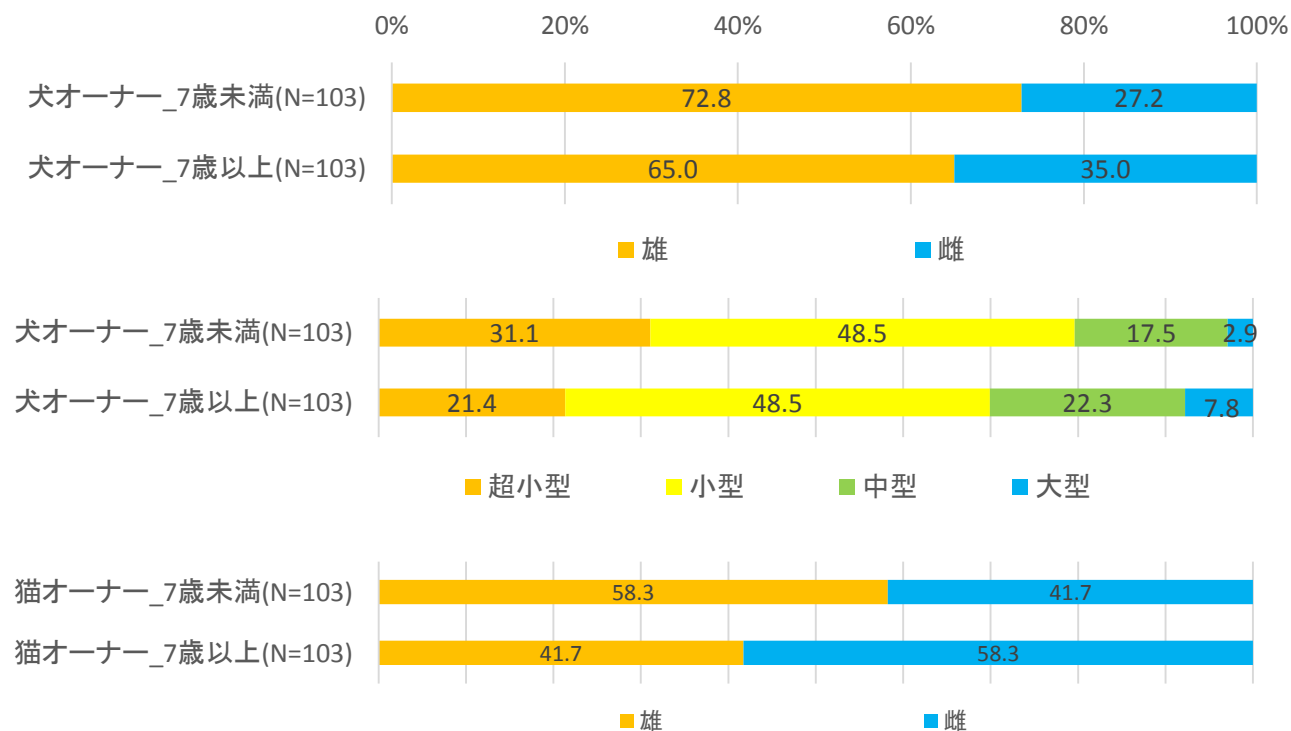
調査対象は、オーナーが暮らしている犬か猫のうち、最も年齢が高いものとした。

犬は雄が多く、7歳未満では7割超、7歳以上でも6割超が雄であった。

7歳未満の3割が超小型犬であり、小型犬・超小型犬が8割を占める。7歳以上は、それに比べ、中・大型犬が多い。

猫は7歳未満は雄が多いが、7歳以上は雌が多い。

■ あなたと一緒に暮らしている犬・猫のうち最も年齢の高いものの、性別とサイズ（サイズは犬のみ）



調査対象の犬の種類

＜犬オーナー 7歳未満＞の犬種

チワワ	16
柴犬	12
トイプードル	10
雑種	7
マルチーズ	6
ポメラニアン	5
ミニチュアダックスフンド	5
パピヨン	4
カニーンヘンダックス	3
ゴールデンレトリバー	3
ミックス	3
シーズー	2
シェットランドシープドッグ	2
ティーカッププードル	2
ペキニーズ	2
ヨークシャーテリア	2

以下 1

イングリッシュスプリングースパニエル
ウェルシュコーギーペンブローク、キャバリア、コーギー、
シベリアンハスキー、ダックスフント、ダップー、
チワワとヨークシャーテリアのミックス、バグ、ビーグル、
プードル、ポメマル、ミックス、チワワとヨーキー、ミックス犬
ミニチャーシュナイザー、ミニチュアシュナウザー1
ヨーキー、ラブラドルレトリバー、犬

＜犬オーナー 7歳以上＞の犬種

ミニチュアダックスフンド	15
チワワ	13
トイプードル	9
柴犬	8
雑種	7
パピヨン	5
ヨークシャーテリア	4
シーズー	3
ラブラドルレトリバー	3
ジャーマンシェパード	2
ジャックラッセルテリア	2
ボーダーコリー	2
マルチーズ	2
ミニチュアピンシャー	2
秋田犬	2

以下 1

MIX、イタリアングレーハウンド
ウエストハイランド・ホワイトテリア、ウエルシュコーギー
ウェルシュコーギーペンブローク、エリー、カニーンヘンダックス、キャバ
リア、コーギー、ゴールデンレトリバー
ざっしゅ、シェットランドシープドッグ、シフォン、ダックスフント
チベタンテリア、ティーカッププードル、バーニーズマウンテンドッグ
バグ、ビーグル、ポメラニアン、ミニチュアシュナウザー
ミニチュアシュナウザーとマルチーズのミックス
ミニチュアミニチュア、ヨーキー

調査対象の猫の種類

03.猫オーナー_7歳未満		04.猫オーナー_7歳以上	
雑種	48	雑種	58
ミックス	13	ミックス	19
アメリカンショートヘア	10	アメリカンショートヘア	8
三毛猫	7	猫	2
スコティッシュフォールド	5	チンチラ	2
アビシニアン	2	スコティッシュフォールド	1
ブリティッシュショートヘア	2	アビシニアン	1
日本猫	2	日本猫	1
2歳	1	チンチラシルバー	1
7ヶ月	1	ロシアンブルー	1
ソマリ	1	チャシロ	1
チンチラシルバー	1	ニホンネコ雑種	1
ねこ	1	にゃんこ	1
ノルウェージャンフォレストキャット	1	ベンガル	1
バーマン	1	ミックス サビ猫	1
ふじねこ	1	雑種(クロネコ)	1
ペルシャ猫	1	不明	1
ラガマフィン	1	野良	1
ロシアンブルー	1	洋系mix	1
牛柄(黒と白)のMIX	1		
雑種 マンチカンとセルカークレックスの	1		
ミックス	1		
猫	1		

ペットの既往

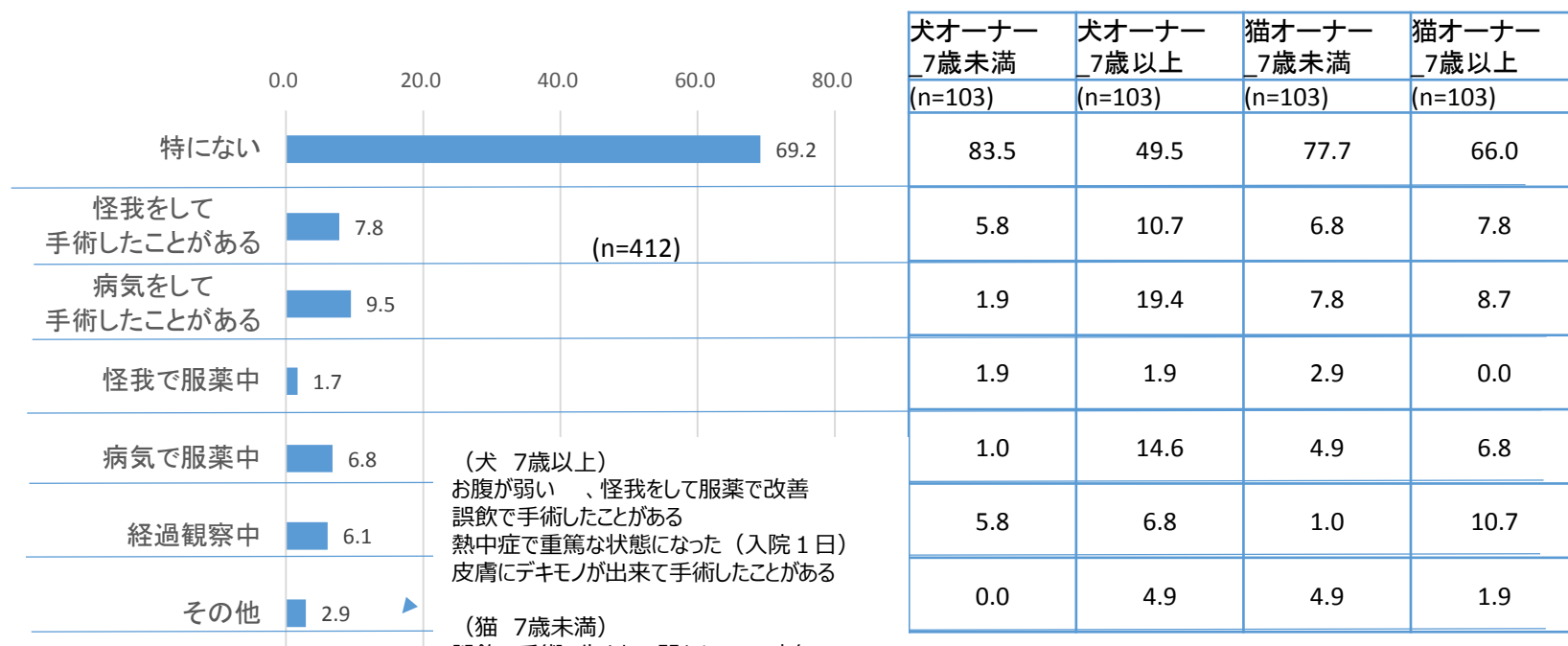
対象のペットの既往を聞いた。

全体では「特にない」という答えが7割で、健康に過ごしてきているペットが多い。

しかし、年齢別にみると、犬・猫とも7歳以上の方が「特にない」という答えが少なく、特に犬オーナーは「特にない」という答えが半数に満たない。

病気で手術したことがあるという答えが19%、病気で服薬中という答えが15%と、7歳以上の猫と比べても病気が多いことがわかる。

■ そのペットは、これまでに大きな病気や怪我をしたことがありますか。（いくつでも）



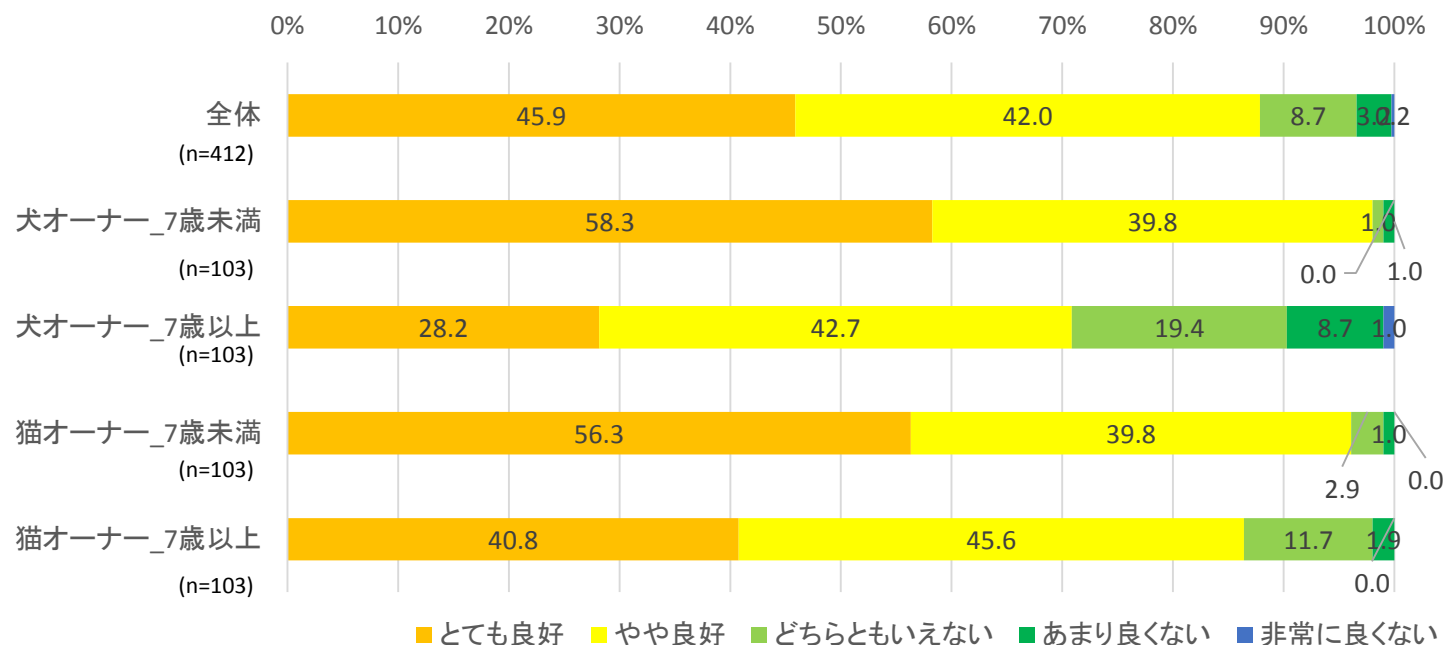
(犬 7歳以上)
お腹が弱い、怪我をして服薬で改善
誤飲で手術したことがある
熱中症で重篤な状態になった（入院 1 日）
皮膚にデキモノが出来て手術したことがある

(猫 7歳未満)
誤飲で手術 生まれて間もないころ病気。
尿道結石で服薬したが完治
避妊手術、膀胱炎、
(猫 7歳以上)
尿路石、病気をしたことがある

現在の健康状態

現在の健康状態を聞いたところ、犬、猫とも7歳未満では「とても良好」が5割を超え、「やや良好」と合わせるとほとんどが「良好」と答えている。
7歳以上は、犬・猫とも「良好」という答えが7歳未満より少なく、7歳以上の犬は約1割が「あまり良くない」「非常に良くない」と答えている。

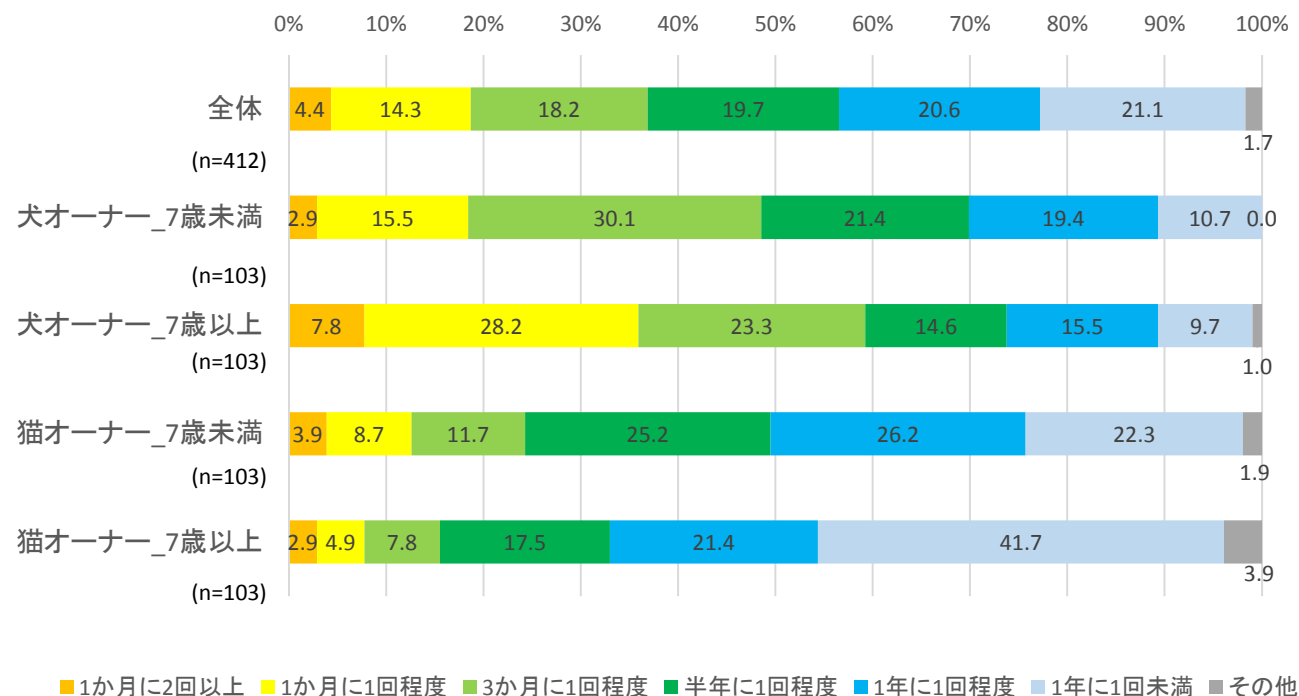
■ そのペットの現在の健康状態はどうか



ペットを病院に連れていく頻度

ペットを病院につれていく頻度はばらつきが大きい。
7歳以上の犬オーナーは1か月に1回以上病院に連れて行っている人が3割を超え、特に頻度が高い。
全体に猫より犬の方が病院につれていく頻度が高く、猫は7歳未満より7歳以上の方が病院に行っておらず、1年に1回も行っていないという答えが4割を超える。

■ あなたはどのくらいの頻度でそのペットを病院に連れていきますか。治療・健診の別なくお答えください

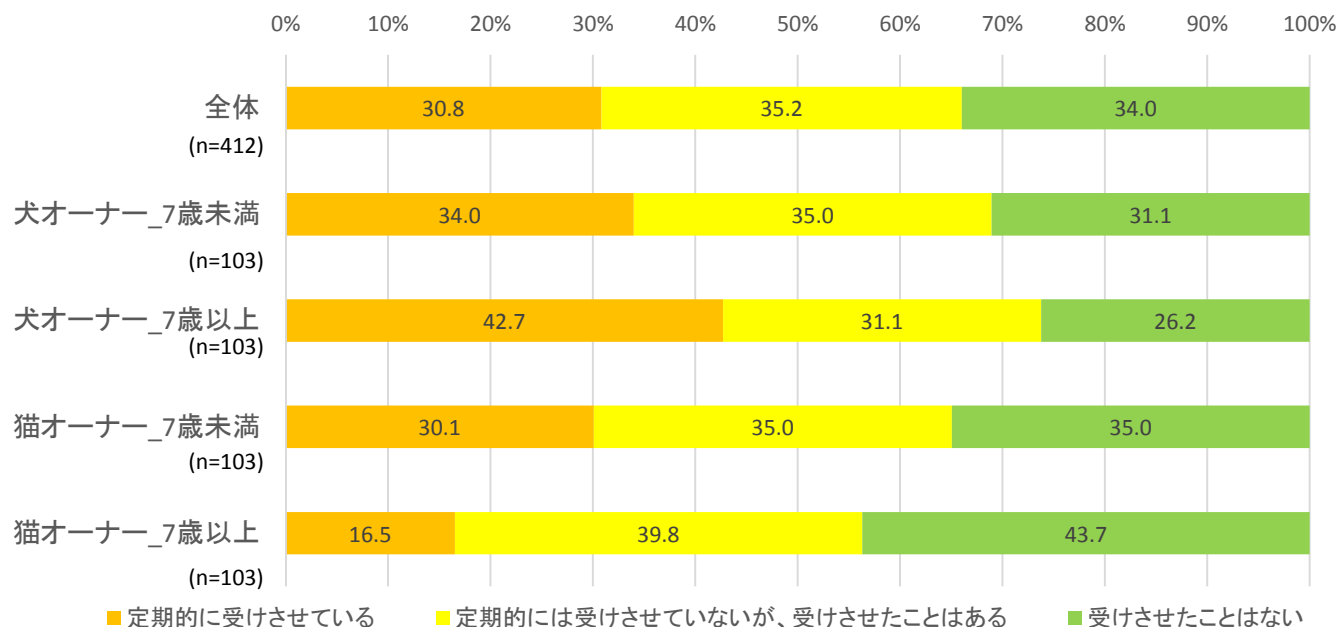


＜その他＞
 病気の時（犬_7歳以上）、
 病院内にあるペットホテル利用時に行く。（猫_7歳未満）。病気になってから連れて行く（猫_7歳未満）。
 不調ではないかと感じた時（猫_7歳以上） 病気になったり、けがをしたときに…（猫_7歳以上）
 特に病院に行っていない（猫_7歳以上） 具合が悪くなったら行く（猫_7歳以上）

健康診断受診状況

ペットの健診を「定期的に受けさせている」という人は3割。一方、「受けさせたことはない」「定期的ではないが受けさせてことはある」という人もそれぞれ3割強で、3分している。
犬は年齢が上がると定期健診を行っている人が多いが、猫は逆に7歳以上オーナーの半数近くが、受けさせたことはないと答えている。

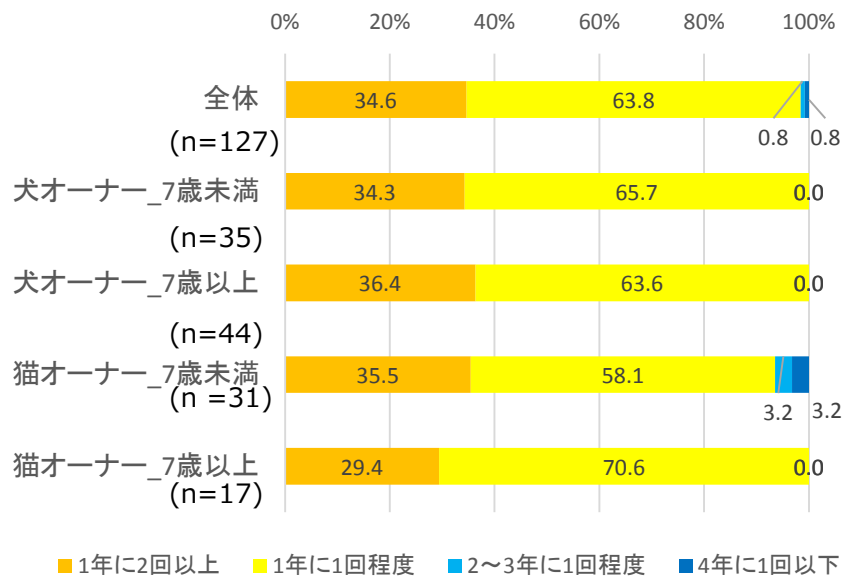
■ あなたはそのペットに定期的に健康診断を受けさせていますか



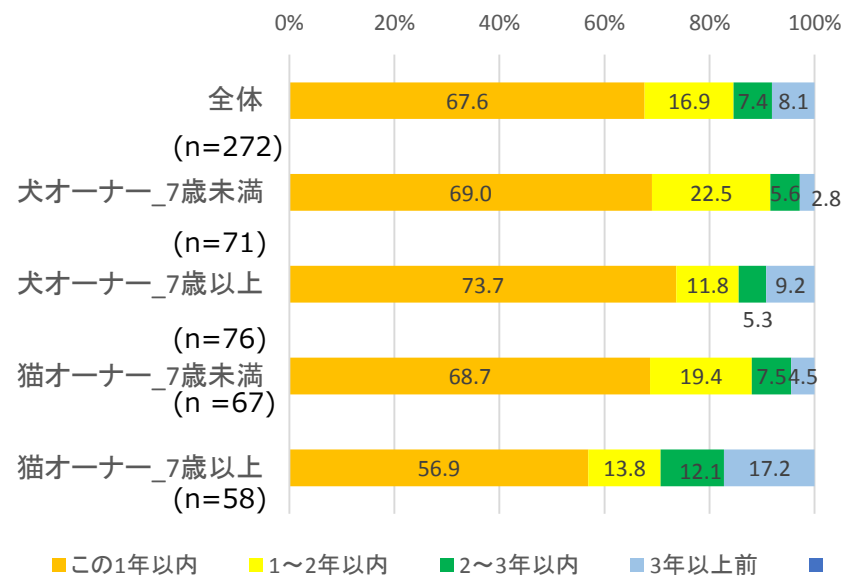
健診の頻度・直近の受診

健診を受けたことがある人のうち、定期的に受けさせている人は、犬・猫とも年齢とほぼ関係なく、半年に1回という人が1/3、それ以外はほぼ1年に1回という頻度であった。
定期的ではない人も含めて、最近ではいる受けたかを聞いたところ、1年以内という人が7割近く。しかし、7歳以下の猫オーナーは、2年以上前という人が約3割で、猫は高齢になっても必ずしも健診頻度を増やさない傾向がみられる。

■ 定期的に受けさせている方に
頻度をお知らせさい



■ これまでに健診をうけたことがある方に。
最近ではいつ受けさせましたか



受診している健診の内容

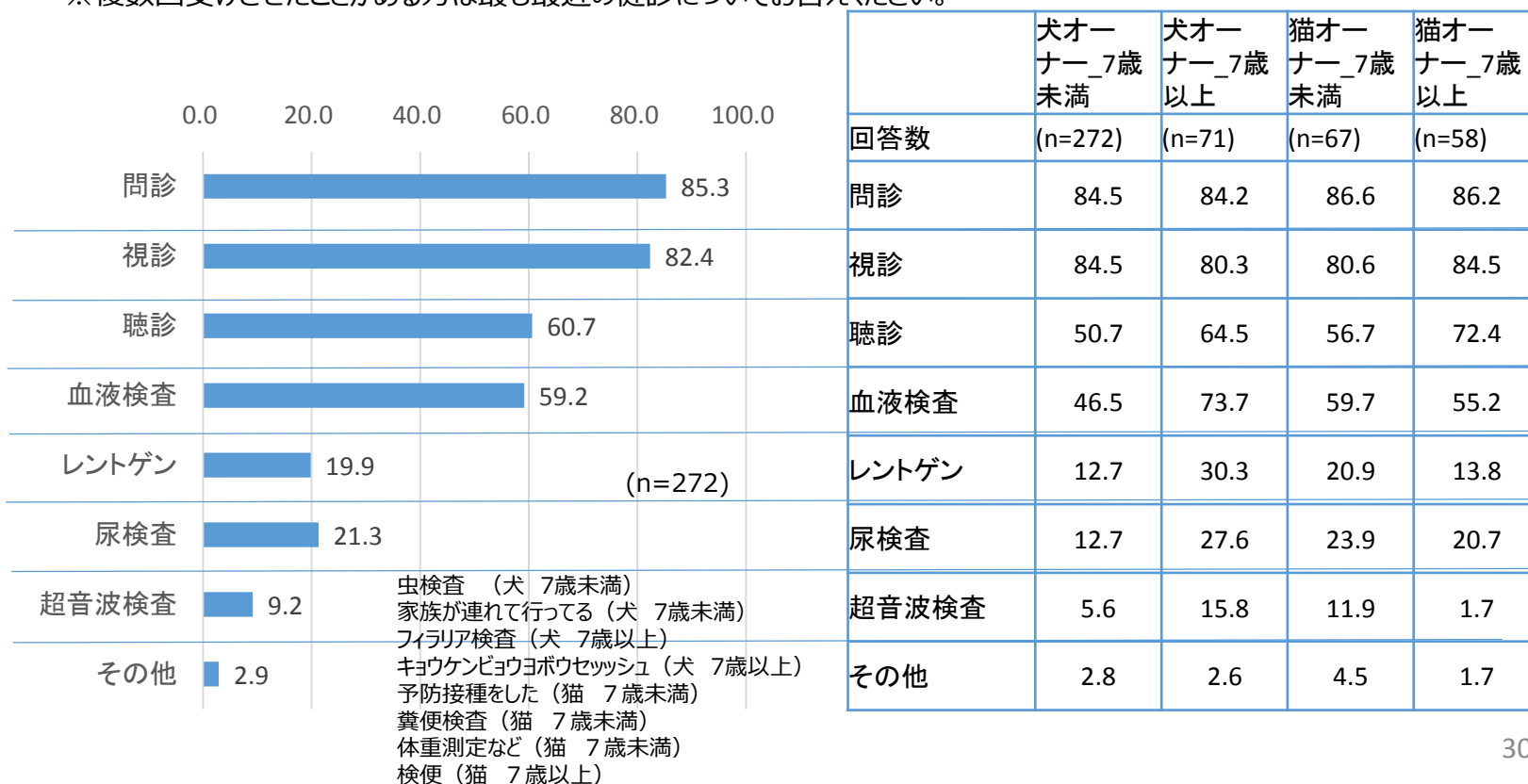
健康診断の内容として最も多いのが「問診」、ついで「視診」であり、いずれも8割を超える。ついで「聴診」「血液検査」がほぼ程度で6割。「レントゲン」「尿検査」は2割程度である。

犬は、「聴診」「血液検査」「レントゲン」「尿検査」いずれも年齢が高い方が受診率が高いが、猫は聴診以外は年齢と関係ないか、むしろ若い方が受診率が高い。

猫は雑種が多いことから、拾ったりもらったりして、若い頃に健康診断をしたという人がいるとも考えられる。

■ 健康診断を受けさせたことがある方にお伺いします。健診はどのような内容ですか。

※複数回受けさせたことがある方は最も最近の健診についてお答えください。



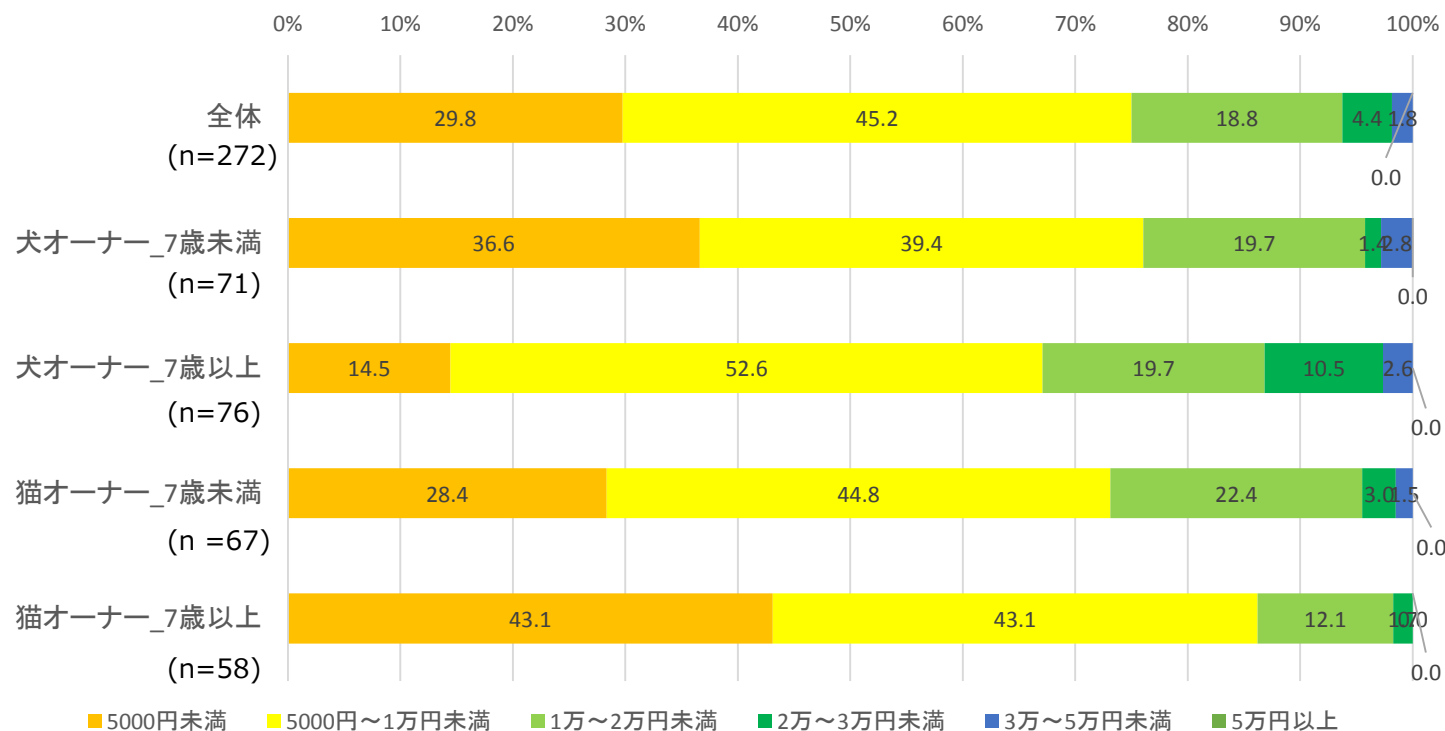
健診にかかる金額

健診を受けたことがある人に1回あたりの健診にかけている金額を聞いた。全体では5000円未満の人が3割。1万円未満の人が7割を占める。

7歳以上の犬オーナーが最もお金をかけており、1万円以上の人3割以上。一方、7歳以上の猫オーナーは1万円以上かけている人は1割強にとどまる。

■ 健康診断を受けさせたことがある方にお伺いします。1回の健診のおおよその金額はどのくらいですか。

※複数回受けさせたことがある方は最も最近の健診についてお答えください。



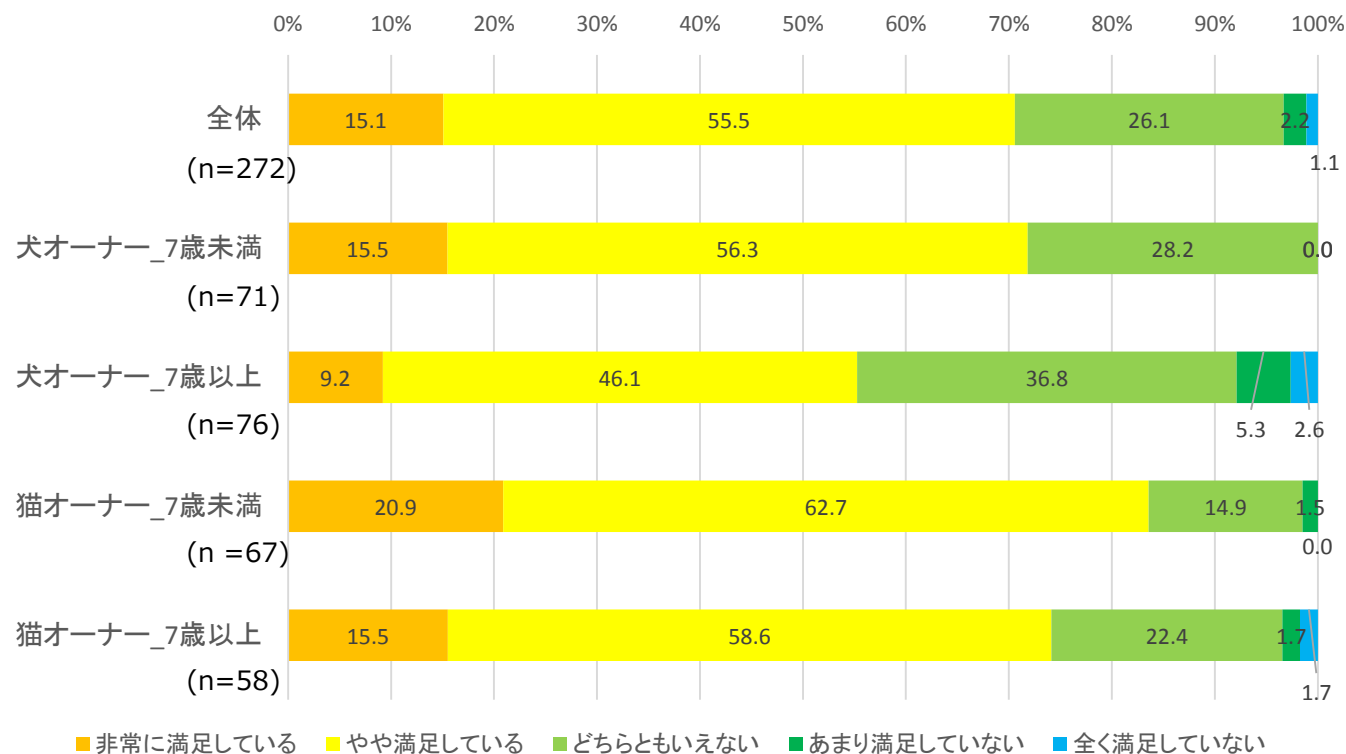
健診への満足度

現在の健康診断に満足している（「非常に満足している」＋「まあ満足している」）という人は、全体の7割。「不満」という人はほとんどいない。

最も満足度が高いのは7歳未満の猫オーナーで、満足しているという人が8割を超える。

7歳以上の犬オーナーは他と比べると満足している人の割合が低く、6割に満たない。

■あなたは現在の健康診断に満足していますか。（※最も最近の健診について）



* 健診の各満足度の理由自由回答は別紙参照

ペットの種別による健診差異

複数のペットと暮らしていると答えた人に、ほかの（年齢が下の）ペットの健診状況を聞いた。
どのペットも同じようにしているという人が6割。「ペットの年齢により異なる」「過去の病気により異なる」という人は1割を超えている。
「犬は受けさせるが猫は受けさせない」という人はいるが、その逆はいない。

■ 健康診断の受診状況は現在一緒に暮らしているそれ以外のペットでも同様ですか。

	全体(n=146)	犬オーナー_7歳未満 (n=15)	犬オーナー_7歳以上 (n=28)	猫オーナー_7歳未満 (n=46)	猫オーナー_7歳以上 (n=57)
同じように受けさせている(受けさせていない)	59.6	53.3	67.9	56.5	59.6
犬は受けさせているが猫は受けさせていない	4.1	13.3	10.7	2.2	0.0
猫は受けさせているが犬は受けさせていない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
犬種や猫種により異なる	6.2	6.7	7.1	8.7	3.5
ペットの年齢により異なる	18.5	26.7	14.3	19.6	17.5
過去にした病気により異なる	11.0	0.0	0.0	10.9	19.3
その他	3.4	0.0	0.0	6.5	3.5

〔その他 内訳〕

他にペットはいない。(猫オーナー_7歳未満) 3
3種混合の時に、医師に相談(猫オーナー_7歳以上)
猫以外はいない。(猫オーナー_7歳以上)

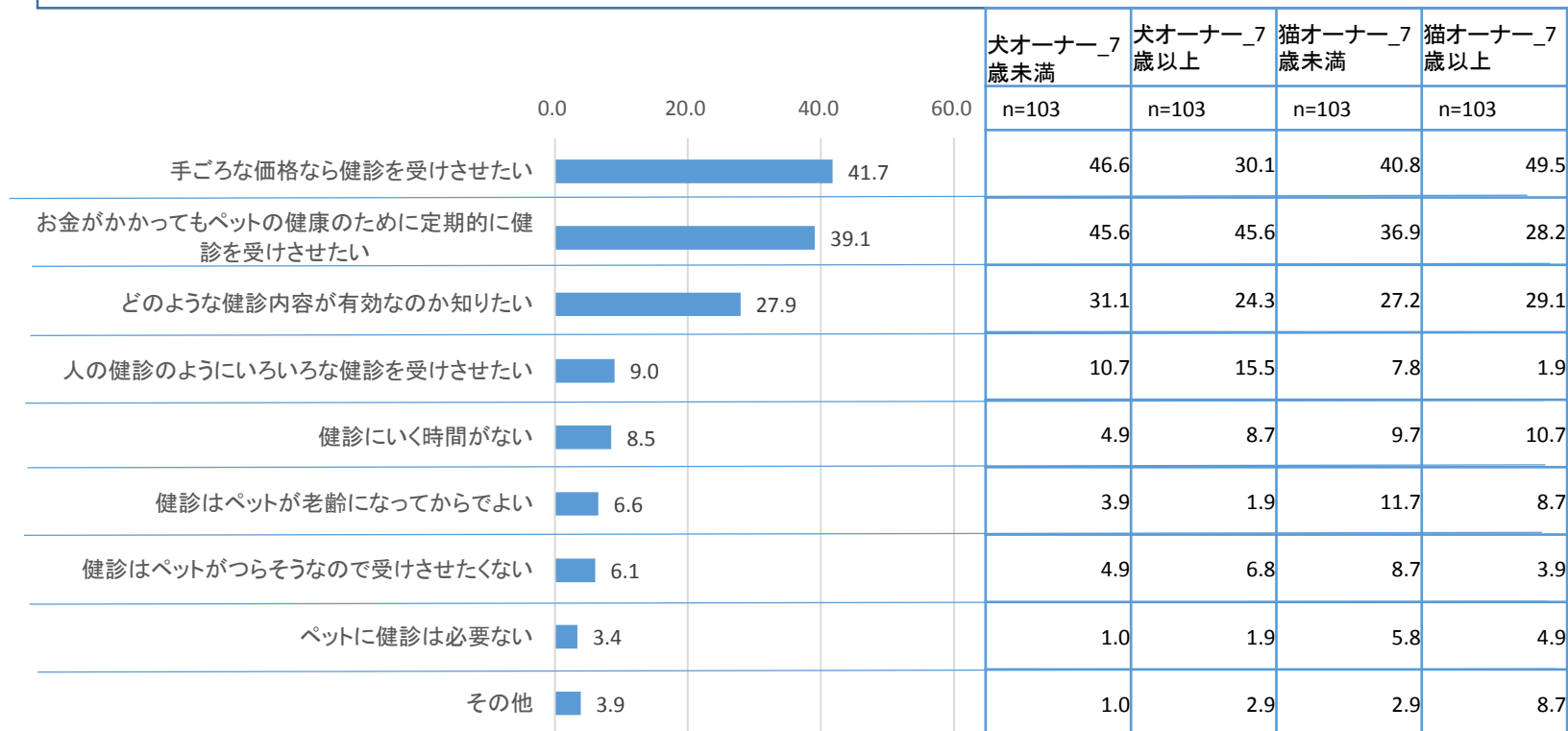
ペットの健康診断についての考え

健診についての考えを聞いた。

「手ごろな価格なら健診を受けさせたい」というオーナーが最も多く、4割。ほぼ同程度で「お金がかかってもペットの健康のために定期的に健診を受けさせたい」と答えている。

ついで「どのような健診内容が有効なのか知りたい」という答えが3割弱で、多くのオーナーは健診を受けさせたいという意向があることがわかる。

■ あなたはペットの健康診断についてどのようにお考えですか。



*「その他」内訳は別紙参照

ペットの健康診断についての考え

■あなたはペットの健康診断についてどのようにお考えですか。

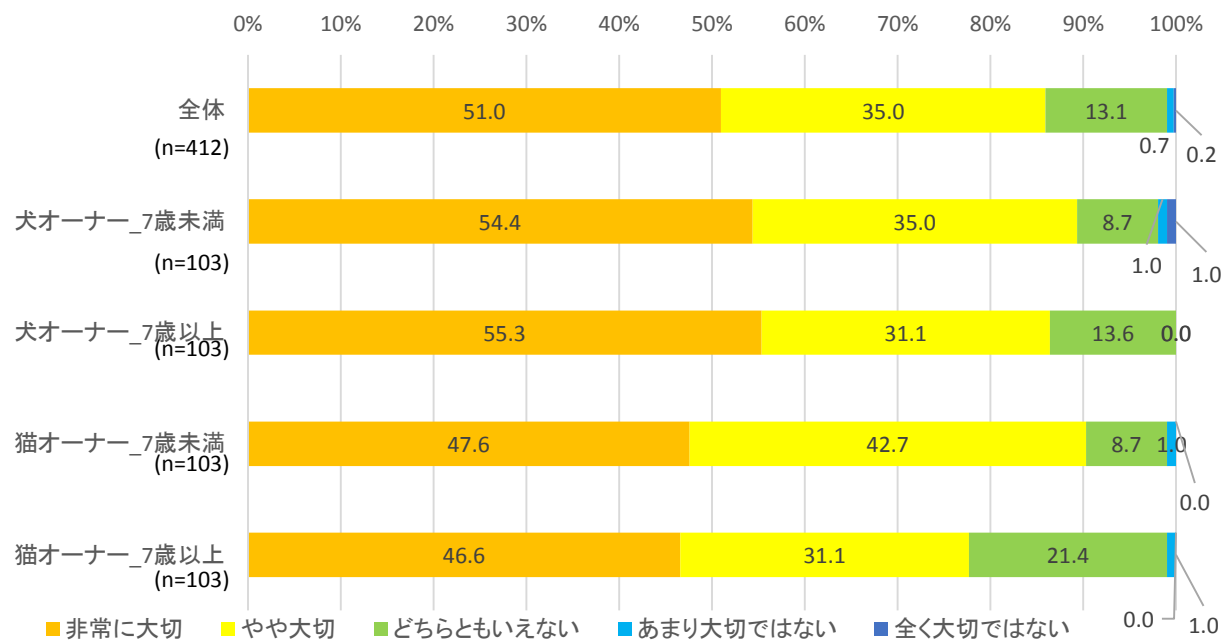
<その他 内訳>

- 病気になる前に値段が手頃で犬の負担にならない健診を受けさせたいです(犬オーナー_7歳未満)
- 毎年のワクチン注射でも大騒ぎする為、一人ではなかなか病院に連れていけない(犬オーナー_7歳以上)
- 必要なら受けさせる(犬オーナー_7歳以上)
- 嫌がるから(犬オーナー_7歳以上)
- 猫は連れて行くときに嫌がるので、苦勞が多いです(猫オーナー_7歳未満)
- 全員連れて行くのが大変(猫オーナー_7歳未満)
- その時々に必要なに応じて受けさせたい(猫オーナー_7歳未満)
- 必要であれば(猫オーナー_7歳以上)
- 特に必要をかんじていない(猫オーナー_7歳以上)
- 体調不良の時にすぐに診察してもらう(猫オーナー_7歳以上)
- 常に接触しています。具合の悪そうなどときにはできるだけ早く診察を受けさせたい。(猫オーナー_7歳以上)
- 健診の時に猫を押さえつけて診察するのであまり連れて行きたくないです。(猫オーナー_7歳以上)
- 具合が悪くなった時に受けさせたい。(猫オーナー_7歳以上)
- 一匹だけなら色々してやりたいが7匹いるので(猫オーナー_7歳以上)
- 異常が出たら連れて行く(猫オーナー_7歳以上)
- ペットの性格・獣医師さんやスタッフさんの対応次第でもっと行くと思います。(猫オーナー_7歳以上)

ペットの健康寿命を延ばすことを大切だと考えるか

健康寿命を延ばすことについて、大切（非常に大切＋やや大切）と答えているオーナーは9割近く。
犬オーナーも、猫オーナーも若いペットと暮らしている方が、そう考えている人がやや多い。

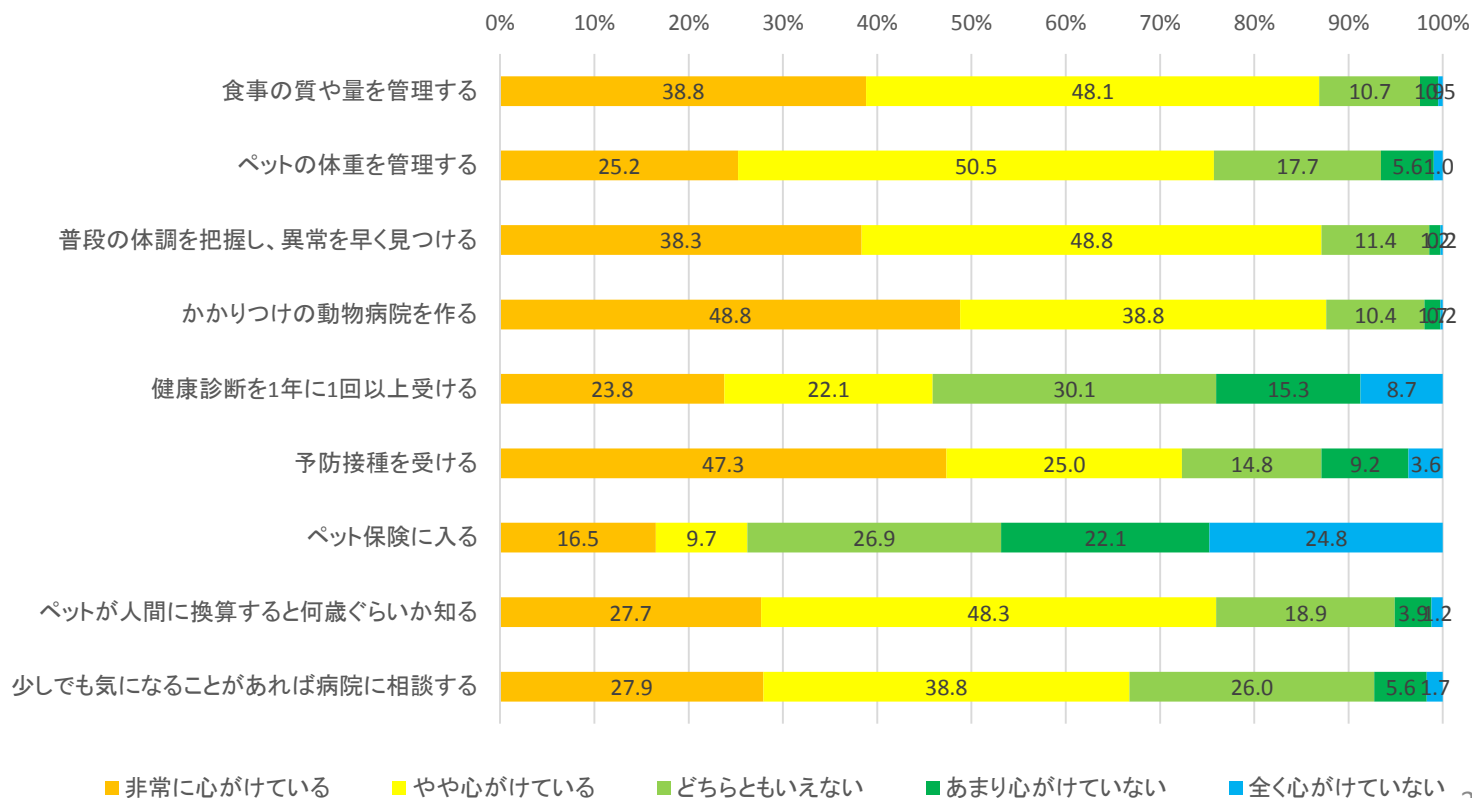
■ あなたは、一緒にお暮らしになっているペットの健康寿命を延ばすことについて、どのようにお考えですか。



ペットの健康寿命を延ばすために心がけていること

健康寿命を延ばすために「非常に心がけている」という人が最も多いのは「かかりつけの動物病院を作る」について「予防接種を受ける」で、いずれも約半数近い。
 「心がけている（非常に＋やや）」という人の割合でみると、「食事の質や量を管理する」「普段の体調を把握し、異常を見つける」が、「かかりつけの動物病院を作る」と同様にほぼ9割であり、この3項目がオーナーにとって最も重要な位置づけてあることがわかる。
 「健康診断を1年1回以上」「ペット保険」は他に比べ心がけている人が少ない。

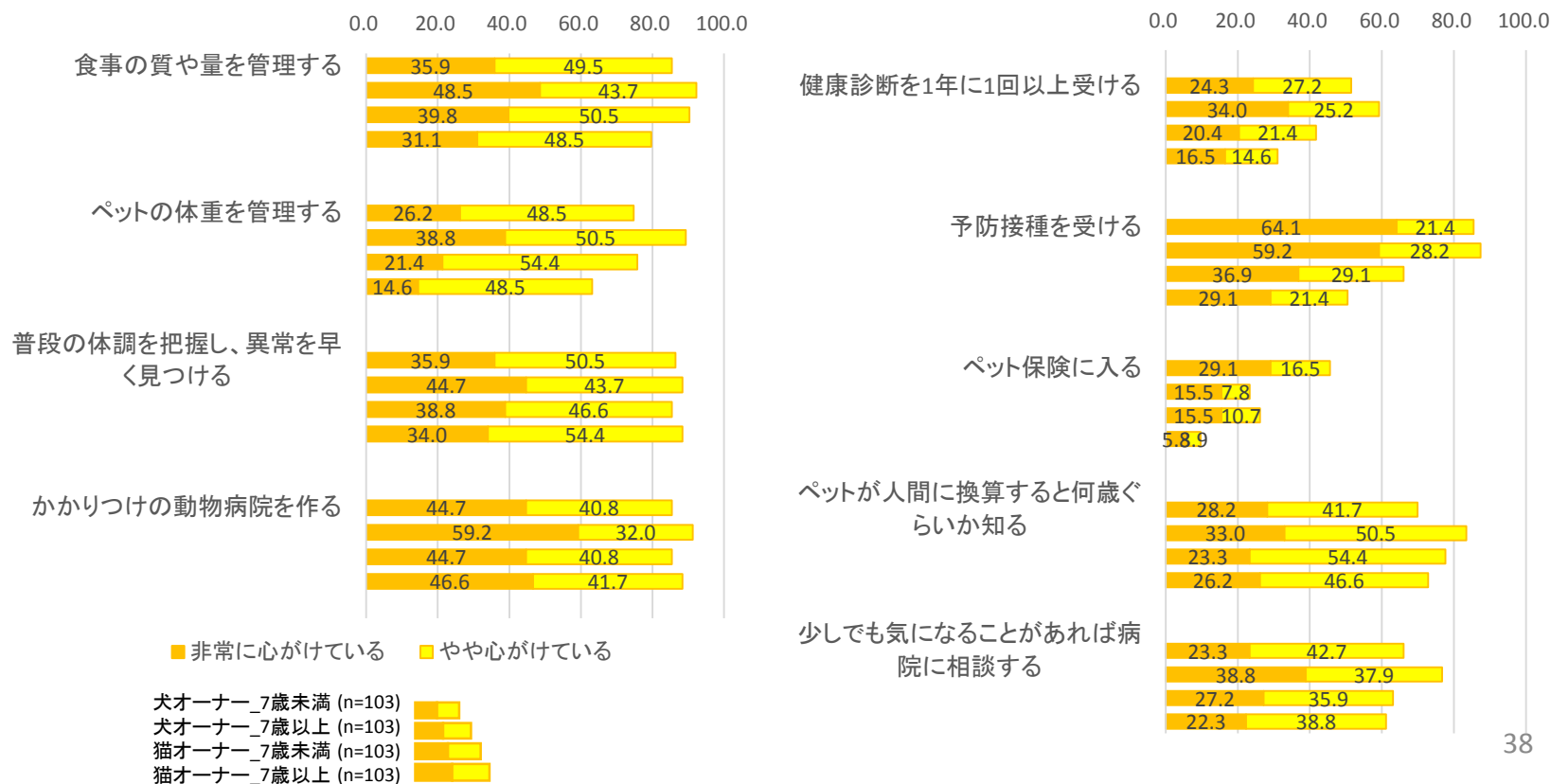
■ ペットの健康寿命を延ばすために、あなたはどのようなことを心がけていますか。



ペットの健康寿命を延ばすために心がけていること（犬・猫別）

「普段の体調を把握し、異常を早く見つける」「かかりつけの動物病院を持つ」という点は犬、猫に関係なく、年齢にも関係なく、ほとんどのオーナーが心がけていると答えている。
全体に猫より犬のオーナーの方が様々なことを心がけている。また、犬は年齢が高い方が、猫は年齢が若い方が、オーナーは健康を気遣う傾向がある。予防接種は犬には定着しているが、猫オーナーで「心がけている」という人は半数程度。「健康診断を1年に1回以上受ける」という猫オーナーは4割に満たない。

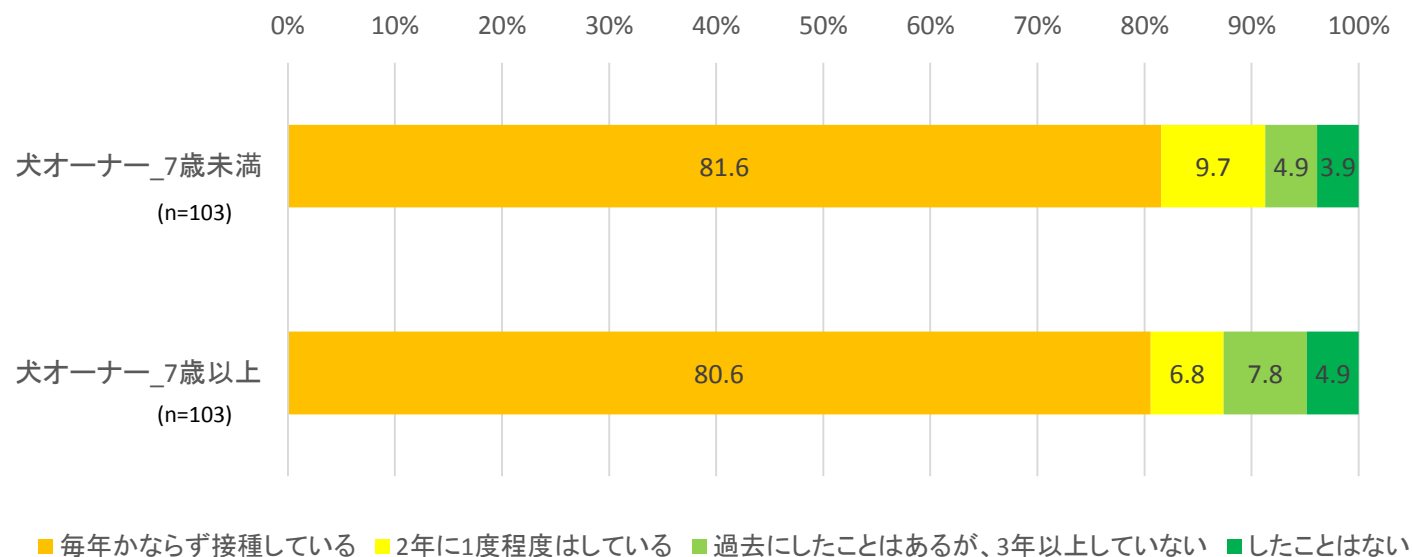
■ ペットの健康寿命を延ばすために、あなたはどのようなことを心がけていますか。



狂犬病予防接種 接種状況

狂犬病の予防接種は毎年必ず受けているというオーナーが8割。一方、したことがない、ここ3年ほどはしていないというオーナーが合わせて約1割いる。

■ あなたは狂犬病の予防接種を受けさせていますか。（1つだけ）



Team HOPEの認知度

チームホープを知っているかどうかを聞いた。

7歳未満のペットのオーナーの方が知っている人が多く、内容まで知っている「名前は見た（聞いた）ことがある」という人が約2割。

■あなたは、ペットの健康寿命を延ばす活動をしている、獣医師の団体「Team HOPE（チームホープ）」を知っていますか。

